

TOKYO URBAN TECH

工学院大学 校友会報



2013 vol.134

# 住宅ローン、まさか金利だけで

## 選ぼうとじていませんか？

意外と見落としがちなのは、

完済するまでの総支払い金額。

金利だけでは見えませんが、大きな差があります。

繰上返済したい時、

手数料が掛かる場合があることをご存知ですか？

すぐに決めてしまう前に、

「総支払額」を確認してみませんか？

☑️ 簡単シミュレーションのご案内  
当社HPにて、【フラット35】お借入のシミュレーションが簡単にできます。



優良住宅ローン **検索**

ご自身でも、施主様用でも住宅ローンで迷ったら、お気軽にまず当社にご相談下さい。



総返済額で

# 最安値No.1

を目指しています。

多くの工学院大学OBの皆様にお申いただきました！誠にありがとうございます！

住宅取得は一生で一番大きい買物です。住宅ローンは何処で借りても住宅の品質には変わりありません。住宅ローンは、主に金利・手数料・保証料等で構成されています。

**株式会社 優良住宅ローン**  
関東財務局長(2)第01443号 【住宅金融支援機構提携金融機関】  
<http://www.yuryoloan.jp>

営業時間  
平日 9:00-15:00

TEL:03-6457-7472

代表取締役社長 田野遼幸格  
(建築学科1969年卒業)

□ 本社:東京都新宿区新宿1-3-12 壹丁目参番館 5階/TEL:03-6457-7451

■ 神戸支店:兵庫県神戸市中央区京町79番地 日本ビルディング9階/TEL:078-381-5630 (代)

■ 仙台支店:宮城県仙台市青葉区大町1-2-1 ライオンビル7階/TEL:022-352-6071

契約には「北海道から沖縄まで」出張いたします。

【資本金 5億9千万円】



新春の集い2013 参加者384名

## CONTENTS

### 校友会情報

校友会長 挨拶 長嶋秀世 .....	6
新春の集い2013開催 組織・事業部 理事 白井精滋 .....	8
全国支部長会が開かれました 組織・事業部 理事 小口俊明 第17回全国大会・埼玉大会 .....	9

### 学園情報

理事長 挨拶 高田 貢 次世代に向けて第一歩を踏み出そう .....	10
学長 挨拶 水野明哲 工学院大学のグローバル化を考える .....	11
校長 挨拶 平方邦行 出合いの意味 退任挨拶 宮下正昭 .....	12

学園Topics .....	13
----------------	----

### 学校法人工学院大学創立125周年 特別企画

古市公威と工学学校 茅原 健 .....	20
----------------------	----

### 同窓会情報

東京駅 丸の内駅舎 保存・復原 杉村貞夫、大内田史郎、川崎香織 .....	22
日本のバスケットボール界に活力を 星本健一 .....	24
オイルス工業(株)を訪ねて 岩倉勝 .....	26
海外での研究交流や技術支援・指導をとおして 日原政彦 .....	28
「ねじれ管による空気輸送の開発と実用プラント」 について 武谷孝生 .....	30

ソフトウェアの品質保証について 後藤英樹 .....	32
私と船づくり 佐野末四郎 .....	34
工手学校の学生のノートを発見 三浦基弘 .....	36

### 同窓会セレクション

単行本「工手学校・工学院大学」 「日本でいちばん美しい町並」映像DVD 谷口宗彦 .....	38
---	----

### 大学関連情報

大学院システムデザイン専攻の紹介 教員の卒業生・修了生へ情報のご願い .....	40
---	----

### 2012年 校友会各部会の活動報告

総務部、財務部、企画・広報部、組織・事業部、学園連携部 .....	42
-----------------------------------	----

### 校友会事務局からのお知らせ

受章・訃報情報、土木会の皆様へ、東京マラソンで地域貢献活動… 「一般社団法人工学院大学校友会第1回社員総会」開催のお知らせ 各部会の新役員、学生・生徒の表彰報告 .....	44
校友会代議員の選挙結果、校友会東北ブロック会議・懇親会の開催 …	46
今回の改革で同窓会と支部はどのように変わるのか 本部役員・支部長メールアカウント一覧 .....	47

### 企画・広報部からのお知らせ

広告案内・表紙のコンセプト・編集後記 .....	48
--------------------------	----

大学及び各同窓会情報誌の紹介 .....	49
----------------------	----

来校の節は是非お立ち寄り下さい。懇親会も出来ます。  
これからも宜しくお願いします。



新宿キャンパス7階の食堂  
(懇親会は8階ファカルティクラブでも開催可能)

新宿食堂部 TEL03-3348-0147



八王子キャンパス学生センター  
800席の広い食堂

八王子食堂部 TEL042-626-3782

## 工学院大学学園生活協同組合

本部TEL03-3346-3240 FAX03-3342-0980

e-mail: seikyo@kucoop.or.jp http://www.coop-bf.or.jp/kogakuin



東京都練馬区「みつぼし薬局」・中野区「アシスト薬局」運営  
「医療モールコンサルティング」の株式会社アシスト

**あなたの健康を守ります。**

### GLORIO

グローリオ中野新江古田



### 医療モールコンサルティング

弊社では、診療所(医院・クリニック)の開業コンサルティングを行っております。特に診療所の開業に対しては、その開業場所の選定が成否の大きな鍵となっています。そのため、弊社では診療圏調査をはじめとする医療施設向けの厳選した不動産情報の提供も行っています。開業作業の全般にわたり質の高いコンサルティングを提供し、次世代型の良質な医療空間を目指したこれからの医療モデルとなる診療所を創っていきます。



静岡駅南口駅前再開発  
クリニックモール



みつぼし薬局

アシスト薬局

### 株式会社 アシスト

代表取締役 星本健一  
東京都練馬区高野台1-7-20  
プレスデビル1F  
TEL.03-3995-4143  
<http://www.assist-pharmacy.com/index.html>





くつろぎ、味わい、楽しむ。

ホテルのあたたかさ  
感じてください。



## 京王プラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1  
TEL. (03) 3344-0111  
<http://www.keioplaza.co.jp/>

JR・私鉄・地下鉄「新宿駅(西口)」「西新宿駅」より徒歩5分  
都営大江戸線「都庁前駅」B1出口すぐ



電気設備 設計施工  
太陽光発電システム・オール電化設備  
設計施工  
介護予防通所介護施設

# 牧野電設工業株式会社

代表取締役 牧野 光洋 (1979年 専門学校電気科卒)

### ■本社(代表)

TEL/03-3313-2511  
FAX/03-3313-2509



### ■甲府営業所

TEL/055-268-6016  
FAX/055-275-4015



### ■ショールーム

TEL/03-6454-6601  
FAX/03-6454-6602



### ■元気広場 梅里

TEL/03-6383-2406  
FAX/03-6383-2407



URL <http://www.makino-dk.co.jp/>

# 株式会社 デーマグ

当社は 1990年創立で、  
『地球環境を大切に』をモットーとし、  
資源、エネルギーを守り、  
自然環境に貢献する  
磁気装置の専門会社です。

- \*商品紹介：1. 永久磁石式アルミニウム溶解炉攪拌機  
：2. 選択帯電型静電選別装置  
：3. その他 1). 廃棄物関係 12 種類  
2). 水関係 7 種類  
3). 大気関係など

\*特許件数：59件

\*主な取引先：新日鐵、トヨタ自動車、東芝など

\*海外支社：米国・中国・韓国

\*海外工場：中国杭州(2005年に中国との合弁会社  
設立：資本1億・社長：高橋謙三)

CAD設計技術者および開発技術者募集

何なりとお気軽にご相談下さい。とにかくアクセスしてみてください。

所在地：〒277-0941 千葉県柏市高柳1143-3(東武野田線・高柳下車徒歩3分)

sales@zmag.co.jp

代表取締役 高橋 謙三(本学機械工学科1970年卒)

TEL: 04-7193-1620 FAX: 04-7193-1621

## ゆとり有る豊かな

## 社会の実現への貢献

### 主な商品

- 電気部品材料(各種電気接点およびクラッド材料)
- 電子部品材料(金ボンディングワイヤー、封止材、各種ペースト)
  - 触媒(燃料電池、脱臭)
- 貴金属化合物(自動車排気ガス浄化触媒、めっき浴)
  - 各種めっき浴およびめっき装置
- 各種産業用白金製品(ガラス関係装置、理化学機器用製品)
  - 医療関係(制癌剤用白金族化合物、マーカー)
- 各貴金属リサイクル(使用済み製品より貴金属回収・精製)

### 身近な使用例

携帯電話の機能で、バイブレーターがあります。

4ミリ位のモーターを使用しています。

そこに使用されている小さなブラシはほとんど弊社のものです。

田中貴金属グループ



田中貴金属工業株式会社

〒100-6422 東京都千代田区丸の内2丁目7-3  
東京ビルディング22階

TEL (03) 6311-5511(代表)

■ 0120-266011

URL : http://www.tanaka.co.jp

# Acoustic Solution Partner

## 音がある フォスターがいる



**FOSTER**

FOSTER ELECTRIC CO.,LTD. 1-1-109 Tsutsujigaoka, Akishima City, Tokyo, 196-8550 Japan Phone:+81-(0)42-546-2311 Fax:+81-(0)42-546-2317  
 〒196-8550 東京都昭島市つつじが丘一丁目1番109号 Phone:042-546-2311 Fax:042-546-2317  
 フォスター電機株式会社 <http://www.foster.co.jp/>

## あなたの前向き就職・転職をサポートします

地域の特性を活かし、Hearty Network(心を込めたお手伝い)を広げてゆきます。

校友会では2007年から就職・転職を希望している卒業生に対してサポートする事業を開始。校友会会員の皆様の就職・転職活動を強力にサポートするため、建築士資格取得教育で40年以上の実績を持つ日建学院が母体の、建設・土木・不動産系に特化した就職支援・職業紹介会社『ニッケン・キャリア・ステーション』と業務提携をしています。キャリアアップ就職を目指し、活動ネットワークを広げるチャンスです。是非、業界特化の就職サポート制度をご利用下さい！

■ 登録希望者は本人が直接「ニッケン・キャリア・ステーション」にお申し込み下さい。

「ニッケン・キャリア・ステーション」への就職登録は電話もしくはメールで直接連絡して下さい。窓口の担当者から今後の流れをご説明致します。東京・大阪・岡山の拠点にて登録して頂きますが、その他の方法についても相談できます。

\* 登録から仕事の紹介まで全て無料です。

\* 個人情報などは厳守されます。

### ■ お仕事紹介システム

工学院大学  
校友会会員  
就職登録申込

電話もしくはメールでお申込み



求人企業紹介

ニッケン・キャリア  
ステーション  
求職者登録完了

【就職登録申込連絡先】 詳細はホームページまで… <http://nikkenos.oo.jp>

フリーダイヤル 0120-810-298

Mail [info@nikkencs.co.jp](mailto:info@nikkencs.co.jp)

■ 本社:東京都豊島区池袋

■ 大阪支店:大阪府大阪市北区

■ 岡山支店:岡山県岡山市北区





学校法人工学院大学は、明治20年に工手学校として創立され、日本の工業技術の発展に尽くした多くの卒業生を輩出し、昨年10月31日に創立125周年を迎えました。

明治32年には工手学校同窓会が設立され、初代同窓会長に三好晋六郎校長が就任し、「相頼り相助くる所の親友を得て、俱に旅程の進行を劃するを以て上策とする(略)」と述べた(工学院大学学園百年史666頁より引用)。

さて、「社団法人工学院大学校友会」は平成20年11月の法人法の改正に伴い、「特例民法法人工学院大学校友会」として活動してまいりましたが、今年4月1日から「一般社団法人工学院大学校友会」として発足しました。この間、平成21年の総会で「一般社団法人への移行」を決議し、関係省庁との調整、協議を重ね、平成24年の総会において、移行後の新しい定款を承認しました。さらに、新生校友会の発足に伴い、代議員制度を導入することになり、昨年12月に衆院選とともにわが校友会も初の代議員選挙を行いました。この選挙で当選された代議員の方々には「一般社団法人工学院大学校友会・総会」で議決権を行使することになります。

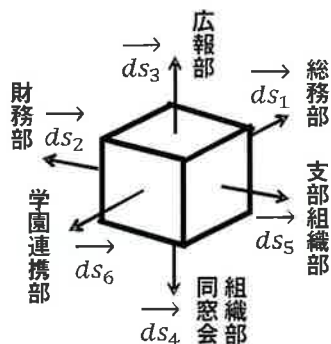
校友会の目的は、学園支援と卒業生の親睦提携です。一言で言えば、「卒業生を幸せにする」と言うことになります。幸せとは、簡単なようす

が人によってかなり解釈が異なります。名言集には多くの言葉がありますが、校友会にマッチした言葉を次にあげます。

- (1) 幸福というものは、一人では決して味わえないものです(劇作家アルプゾーの言葉)。
- (2) 人生の最大の幸福は一家の和楽である。円満なる親子、兄弟、師弟、友人の愛情に生きるより切なるものはない(野口英世の言葉)。

私は、校友会の目的から、母校が発展すること、周りに仲間がたくさんいることを「卒業生の幸せ」としましたが、もちろん、健康なこと、仕事が順調なことは言うまでもないことです。

さて、新しい校友会は、目的を達成するための執行部隊である部会を図のような構成にしました。



校友会の各種行事や施策は、次の式で表すように各部会がベクトルの方向を合せ、業務を遂行することで目的を達成することができます。

$$\langle \text{卒業生の幸せ} \rangle = \int_w \overrightarrow{\text{校友会}}(s_i) \cdot \left( \sum_{i=1}^6 \overrightarrow{ds_i} \right)$$





各部会の役割を以下に述べます。

総務部は従来通りで各種規則の制定、事業報告、事業計画の作成、企画・立案を業務とします。

財務部も同様に校友会財産の管理、予算、決算の作成及び予算の執行に関する業務を行います。

広報部は企画部門を切り離し、校友会報の発行、ホームページおよび校友情報ネットの発信やその他広報活動に関することに専念します。現代社会では情勢が急激に変化するため情報伝達の迅速性が重要であり、校友会ではネットワークを用いた情報伝達を促進します。校友会報は読んで楽しい記事を読者に提供し、ホームページは常に新しい情報を伝えることに徹します。

同窓会組織部は同窓会との連携、同窓会会長会議の開催、新春の集いの開催を担当します。今年の新春の集いは384人が参加し、ガールズバンド「おーばーおーる」の歌や華やかなダンスもあり、賑やかで楽しい一日でした。

支部組織部は支部の設立、活性化の支援、全国大会の開催を担当します。来年は埼玉全国大会が開催されますので、埼玉支部をバックアップすることになります。

学園連携部は学園の発展に貢献するための施策の立案、学校法人との連絡調整、大学後援会との連携、学生生徒の奨励事業を行います。毎

年、新宿祭、八王子祭、中高の夢工祭など各種の催しを支援し、定期総会では優秀な学生・生徒を表彰しています。なお、学園連携部が担当していた卒業生バックアップセンターはこのたび業務提携先の企業の都合で、2013年1月31日に閉鎖しました。利用されていた皆さまには大変なご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。これまでに登録いただいた基本情報は、サービス終了時にセキュリティーを万全にし、校友会データベースに移行しました。このデータについては、校友会と言えどもご本人の了承なしに使用いたしません。バックアップセンターは2010年5月に卒業生同士の連絡、再就職の支援などを目的として開設しましたが、廃止の代替策を現在検討中です。このように各部会は校友会の目的達成のために業務を遂行します。2006年の校友会報に掲載された大橋秀雄前理事長のメッセージにある「その成果をどう評価するか」についても実行するよう計画しています。

末筆となりましたが、卒業生には仕事で成功し、豊かな生活をして欲しいと願っております。皆様のご健勝とご活躍をお祈りします。



工学院大学校友会  
会長 長嶋秀世



皆さんが楽しみにしていた恒例の「新春の集い 2013」が1月13日(日)11時30分から新宿校舎1階アトリウムでたくさんの校友と学園関係者のご出席をいただき盛大にかつ滞りなく行われました。

フリーアナウンサーの藤生直子さんと組織・事業部の白井の司会・進行役で400名弱の参加者を得て始まりました。これは各同窓会の皆さんの呼びかけのお陰と思ひ感謝しております。

組織・事業部 来住部長の「開会の辞」からスタートしてグリークラブOBによる「校歌」斉唱と参加者全員による「学園歌」と進み、長嶋秀世校友会会長の挨拶で今年是一般社団法人へ移行し校友会の再スタートの記念すべき年などについて述べられました。

引き続き学校法人工学院大学理事長高田貢様からお祝辞をいただきました。その後、水野学長先生始め学園関係者、

および大学後援会関係から会長 竹内喜美子様他の来賓紹介を行いました。

会は、鏡開きに長嶋会長、高田理事長、水野学長、宮下校長にお願いし、乾杯のご発声は水野学長にお願いしました。いよいよ、ご歓談がスタートしました。

アトラクションは、ガールズバンド「おーばーおーる」のダンス、演奏、「上を向いて歩こう」などの歌を披露いただいた。「おーばーおーる」は、工学院大学音楽部OGが、在学中に活動していた当時唯一のガールズバンドで、今回の出演依頼で再結成しました。

景品抽選会では、校友会から「ニンテンドー3DS」「任天堂Wii」「工学院大学ブランドの日本酒」等々をはじめ、校友企業や各同窓会からたくさんの景品を提供していただきました。景品は3人に1人が当たる勘定から抽選カードの番号を見ながらわくわく興奮した

抽選会となり、景品の受取りは、大混乱でした。次回の工夫が期待されるどころです。

今年の新しい企画としては名札を同窓会別に色分けし、文字を大きくして見やすくしたり、記念写真コーナーを設置してその場で撮った写真をプリントアウトしてすぐ持ち帰ることができるような便宜を図りました。非常に皆さんが喜んでおられました。

最後に組織・事業部の加藤理事の中締めで三々五々解散しました。

われわれ組織・事業部の担当も今回で終わりますが、次回もいろいろな新企画を行い皆さんに喜んでもらえる新春の集いが開催されることを望んでおります。

尚、当日のスナップ写真は、校友会事務局にアルバムを備え、また、校友会ホームページからも閲覧できますので是非、ご利用ください。

記) 組織・事業部 白井精滋

創立125周年記念の式典を目前に控えた10月30日に、平成24年度全国支部長会が開催されました。

開会の辞があった後、10月24日に永眠なさった石川県支部長の故野口嘉與殿のご冥福を祈り、出席者全員で黙祷を行いました。

会長挨拶では、長嶋会長に代わり谷口副会長から挨拶がありました。

今般、新しい支部長として、茨城県支部寺田正堯氏、群馬県支部村田敬一氏、東京支部横山修一氏、学園支部小林光男氏が就任され、長嶋会長からの委嘱状が交付されました。その後、寺田新支部長、横山新支部長から抱負が述べられました。

座長、副座長、書記が指名され自己紹介の後、座長の進行でテーマに沿って、まず福田総務部長から説明があり、質疑に入りました。

各支部長から支部の実情に基づいた、移行手続きに関する不明な点等を確認する質問が行われ、福田総務部長をはじめ渡辺常任理事、高橋事務局長が適宜回答しました。質問の中では、企業支部の件、金融機関における支部口座の件、会計報告規則の件などがあり、最後に座長のまとめとして「各支部とも4月1日にスタートできるよう、3月末までに必要書類の準備をお願いしたい」との発言がありました。

今回の全国支部長会是一般社団法人移行後となり、新制度・新体制での出発となるため、座長等及びテーマは決定せず閉会となりました。

終了後会場をファカルティクラブに移し、集合写真を撮影し、懇親会を行いました。皆さんそれぞれ、この1年間を振り返り、一般社団法人移行に伴う支部の対応や、125周年記念事業のことなどを交え、また、日常の支部活動の情報交換などで対話の輪が広がり、和気藹々の語らいの場となりました。

記) 組織・事業部 小口俊明



## 全国支部長会が開かれました。

開催日時：10月30日(火) 13時～17時  
場 所：新宿校舎7階 A0712 教室  
参加者数：63名(役員含む)  
座 長：唐鎌貞郎氏(埼玉県西支部長)  
副座長：高村 劫氏(福島県支部長)  
書 記：中野昭則氏(佐賀県支部長)  
テーマ：「一般社団法人移行に伴う、支部の具体的な手順とスケジュールについて」



校友新宿キャンパスに集合しよう！

# 工学院大学校友会 第17回全国大会・埼玉大会

我が母校の先輩・後輩・仲間と集おう！未来に向かって話そう！

大会当日：平成26年10月18日(土)



全校友と埼玉大会の  
絆を強く！

- プロローグ(10:30～12:00)  
新宿キャンパスでクラス・クラブ・研究室‘会’・支部等の懐かしい顔に会おう！
- 式典(13:00～13:35アーバンテックホール)
- 講演(13:40～14:40アーバンテックホール)  
「澁澤栄一の起業家精神」埼玉県生誕、幕末の幕臣・ヒューマニズムのある我が母校と関わりが深い実業家 澁澤記念館理事長 澁澤雅英氏
- 記念パーティ(15:00～17:00アトリウム)  
和太鼓・軽音楽・歌手・学生・OB・教職員等の競演そして大抽選会
- 川越祭(17:15～川越)(希望者)  
ツアー：10月19日(日) 鉄道ミュージアム・盆栽・小江戸等

## 次世代に向けて第一歩を踏みだそう

理事長 高田 貢



春の訪れとともに、本年も新年度がはじまりました。工学院大学校友会におかれましても本年度より一般社団法人への移行が実現し、新たな歴史の1頁を刻まれることになりました。心からお喜び申し上げます。校友会は1899年の工手学校同窓会の設立がルーツであり、以来幾多の変遷と困難を克服し114年の歴史と伝統のもとに学園の卒業生の組織である社団法人工学院大学校友会に統合され活動されてきました。その校友会活動や校友の活躍は在学生・生徒、学園に取って誇りでありその影響力は大であります。このたびの新制度への移行を機に次世代に向けて校友会の更なる発展と校友各位の益々のご活躍を願っております。

学園におきましても3月には大学・大学院生1,471人、高等学校生250人が卒業し巣立って行きました。また、本年度の入学者は大学・大学院1,680人、中学・高等学校396人となり、在学生と合わせ総勢約7,600人の学生・生徒が学ぶ学園となっております。

さて、昨年10月31日に学園創立125周年を迎え、お陰さまで関係各位のご協力により記念式典をはじめ祝賀会、キャンパス・フェスタ、国際シンポジウム等々の記念行事を盛大かつ滞りなく開催することができました。

また、2008年4月から進めてきました記念事業につきましても募金募集事業をはじめ教育環境整備事業、各種支援事業、社会貢献事業、学園史の編纂事業等々は現在工事中の弓道場およびボクシング場の竣工を待って全て完遂する運びとなっております。これにより記念事業は本年3月をもって終了することにいたしました。その間、厳しい経済環境にもかかわらず記念募金にご芳志を賜りました校友の皆様には、この紙面をお借り致しまして衷心より感謝申し上げます。なお、125周年事業関連のご報告につきましてはホームページの掲載をはじめ、各種冊子の発行、DVD（支部等にも配布済み）を作成配布するなど随時実施させていただいております。なお、創立125周年記念史につきましては書店またはネット販売にて入手可能となっております。

学園も新年度を迎え、次世代の四半世紀150周年に向け第一歩を踏み出しました。近年、我が国は政治、経済、教育などあらゆる分野で構造変化の時代を迎え、なかでも少子化、グローバル化が進み教育環境が大きく変貌しようとしております。このような環境下で、私達は先達の創立当時の熱い志と建学以来の理念を受け継ぎ多様化する次世代に存続し発展できる強い学園づくりに鋭意取り組んでおります。引き続き校友会および校友の皆様方のご支援とご協力なにとぞよろしくお願い申し上げます。

## 工学院大学のグローバル化を考える

学長 水野 明哲



昨年秋に創立 125 周年を迎え、厳粛な式典と盛大な祝賀会を開催できました。この場を借りて、多大なご貢献をいただいた校友の皆様にお礼申し上げます。私は学長として、125 周年の次には「教育の改革」と「グローバル化」がとりわけ喫緊の課題であると思っています。ここではグローバル化について私見を申し述べてみたいと思います。

ここ数十年を振り返ると、航空機の発達をはじめとするさまざまな要因で、海外に行くことが極めて簡単になりました。それにもかかわらず、日本は文化的に欧米から隔絶しているように感じます。ガラパゴスにたとえられたりしています。

日本人がグローバル化できない理由は語学の問題ばかりではなく、その独自のメンタリティーにあるのかも知れません。私が 1984 年から 85 年にかけてドイツに滞在したときの体験談からその一端をご紹介します。と思います。

ドイツに着いたとたん、早起きをしてドイツ語学校に通うための目覚まし時計が必要になりました。スーパーに行くと、カウンターで「目覚まし時計をください。」と言ったが相手にしてもらえません。それもそのはず、1 年以上滞在していてわかったことは、目覚まし時計が欲しいときにどう言えばよいか。「私は目覚まし時計が欲しい。なぜならば、……。」ドイツでは目覚まし時計が欲しいとき、その理由を店員に 5 分も 10 分も話す必要があるのです。そのような文化の違いがわからないと、コミュニケーションができないということになります。

校友の皆様の中には、このような海外体験をお持ちの方も多いことでしょうし、体験からさまざまな教訓を学ばれたにちがいありません。そんな中で、工学院大学の学生をグローバル化するにはどうすればいいか、卒業と同時に世界で活躍できるための素養を身につけてもらいたい、と考えています。そのためには、語学に加えて、さまざまな文化の違いにたじろがずに立ち向かえることが求められます。

学生をグローバル化させるには、できるだけ早い時期に海外体験をさせるのが良いと思っています。たとえば 1 年生のうちに、海外に滞在するという経験をすれば、それ以後の大学での授業を受ける態度も変わってくるでしょうし、おのずと勉学の成果も充実することでしょう。それは就職にもプラスの効果を及ぼすはず。会社に入ってから積極的に海外に出ようという姿勢を見せることができるはずです。できれば今年の秋から、半年程度、希望者に海外で勉強する仕組みを作ろうと考えています。

他方で、海外の学生を本学に招いて、八王子キャンパスで学んでもらおう、という企画も検討しています。いま工学院大学は、大きくグローバル化に踏み出そうとしています。校友の皆様には、温かく見守っていただき、若い学生諸君にエールを送っていただければ幸いです。

## 出会いの意味

工学院大学附属中学・高等学校 校長 平方邦行



校友会の皆さん、はじめまして。2013年4月より工学院大学附属中高の校長に就任いたしました平方邦行でございます。校長就任を目前にして工学院大学との「出会い」は何であろうかと、考えてみました。特に新入生の皆さんと私が、今春出会ったということの大切な意味は3つあると思います。

1つ目は、21世紀初頭の「歴史上の地点」で出会ったということです。これは単に国際化の大きな動きではなく、ネットによって時間と空間を超えて結び会える事実です。つまり、校友の皆様の問題意識が、世界の重要な問題と直結してしまう地点に共に立っているのです。

2つ目は、常に「自然」と「高度な技術」を意識する「学びの環境」があることです。今日では「自然とは何か？」を意識しない人はいないでしょう。しかし、多くの人は意識できても、自分で自然とかかわる道具を習得できていません。その道具とは、「語学力」「最新の科学技術」「思考」というテクノロジーの修得です。

3つ目は、各校友の成長と本学の歴史は、シンクロナイズするということです。卒業後も本学の校友として存在する共通の遺伝子を持つことを意味します。全校友の皆さんの成長は、工学院大学の歴史そのものなのです。その遺伝子を「工学院大学即未来」と呼びたいと思います。この3つが揃っているのが工学院大学であると言えます。

昨年10月、東京駅の駅舎が復原・修復されました。この建物は本学建築学科を創設した辰野金吾の設計です。教え子となる多くの工手学校の卒業生によって建設され、平成の大工事でも工学院大学の卒業生が中心となって完成しました。正に遺伝子の象徴のひとつです。幕末から明治に至る時代は、やがて来る20世紀という最新技術を習得する気概に満ち、それをテコにさらに新しい技術革新の意欲に燃えていた時代です。そして何より新しい幸せな社会を共につくろうとしていました。もうおわかりですね。ちょうど今の私たちの置かれた状況と同じです。126年前に誕生した「工手学校即未来」という遺伝子、つまり時代のリーダーシップを発揮するという遺伝子が、みなさんに継承されたということ。このことが今日の出会いの大きな意味なのです。

## 退任のご挨拶

前校長 宮下正昭



太田忠之先生の後任として2009（平成21）年10月に校長に就任しましたが、本年3月で退職しました。少子化に伴う生徒数の大幅な減少に加え、公立高校の授業料無償化や中高一貫校の増設など私学を取り巻く環境はかつてないほど厳しく、このような状況下で何とか職務を遂行できましたのも、偏に学校関係者の皆様、校友会の皆様、法人各位のお力添えによるものであり、心より御礼申し上げます。微力ながら附属中高の発展を目指し、中学校の3クラス化、八王子駅と北野駅からのスクールバスの新設、チューター制度ならびに進学ゼミの導入、専任教員の増員などに取り組んできましたが、本学園の発展に多少なりとも貢献できれば幸いです。

皆様のご健勝とご発展ならびに本学園の一層の発展を祈念いたします。

## 125周年を迎えた工学院大学では、 様々なイベントが開催されました!



「昆虫に学ぶマイクロロボット」をテーマに講演する鈴木健司教授



「身近なまち・八王子の魅力を引き出すまちづくり活動」をテーマに講演する野澤康教授

### 根岸英一博士「夢を持ち続けよう!」特別講演会を開催

10月30日に附属中学校・高等学校の生徒を対象に開催された125周年記念講演会には、生徒や関係者など約1,200名が集い、大学の講義を体験しました。

第I部は、附属中学校・高等学校を会場に、マイクロロボットの開発に取り組む、鈴木健司教授(機械システム工学科)と、都市計画・建築計画を専門分野にもつ野澤康教授(まちづくり学科)が登壇。

鈴木教授は、「昆虫に学ぶマイクロロボット」をテーマにコオロギやアメンボなど身近な昆虫の動きがわかるロボットや映像を交えながら講演を行い、野澤教授は、「身近なまち・八王子の魅力を引き出すまちづくり活動」をテーマに八王子の風情と文化、華やかさを彩る中町の花街かがいを事例に挙げながら講演しました。

第II部は大学体育館を会場に、

2010年にノーベル化学賞を受賞した根岸英一博士が登壇。「夢を持ち続けよう!」をテーマに、ノーベル化学賞受賞に至るまでの経緯を振り返りながら『夢を持つと同時に、自分の適性を客観的に評価する目を養う』ことの重要性を説きました。生徒たちは根岸博士の熱のこもった講演に深く聴き入っており、講演後には活発な質疑応答が展開されました。

聴講をした、石橋樹さん・長井理恵さん(中学校3年生)は「ノーベル賞を受賞された根岸博士が語られた自分の『夢』を信じ、自ら切り開き、進み続けるひたむきな姿に感動しました。根岸博士のお話を聞き、夢を追い続け、努力することの大切さに気付きました」とコメントしています。



## 祝・創立125周年 記念式典・祝賀会

10月31日午前に開催された記念式典は、学園の発展に寄与された方々をお迎えし、雅楽師 東儀秀樹氏による記念演奏で厳かに始まりました。国歌独唱、ご来賓の方々からの祝辞、学園代表の150周年に向けた決意に続き、根岸英一博士による記念スピーチでは、これからの工学院大学、学園の発展に向けたお言葉がありました。そして本学から博士へ「名誉博士称号」授与させていただきました。最後は映像による本学の125年の歩みが写し出され、その歴史を辿りながらグリーンクラブOB会による大学歌斉唱で幕を閉じました。また壇上では、125年を記念した学生たちのプロジェクト「学園夢企画」から4チームに表彰状が手渡されました。

続く祝賀会は、和太鼓の演奏と共に開会。鏡開き、戸塚雛子保存

会による戸塚雛子・八王子消防記念会の木遣りなどが賑々しく祝いの場を盛り上げ、来賓の方々と共に創立125周年を祝いました。



150周年に向けた決意をスピーチする 高田真理事長

## 「キャンパスフェスタ」に、OB・OG、プロの演奏家、お笑い芸人も登場。

10月31日午後から新宿キャンパスのエステック広場を会場に開催した「キャンパスフェスタ」。第1会場、アトリウムオープニングには本学OGの女流落語家が登場し、落語パフォーマンスでフェスタがスタート。続く本学OB和太鼓演奏家+エレキ三味線のユニットでエキサイティングな演奏を繰り広げ、芸人AMEMIYA、Wコロも登場し会場は爆笑の渦に包まれました。トリを務めるのは雅楽師 東儀秀樹氏。記念式典に続くスペシャルライブで本学の新たなスタートを祝いました。

第2、第3会場では、第1会場

でミニトークショーを務めた釜石市の宝来館女将がフードアドバイザーを務めた「福幸鍋」「模擬店」など数々の食事と飲み物が振る舞われて新宿キャンパスはお祭りムード一色で盛り上がりました。



東日本大震災復興支援として「福幸鍋」が振る舞われた



## 未来に向けて大きく変わる 八王子キャンパス

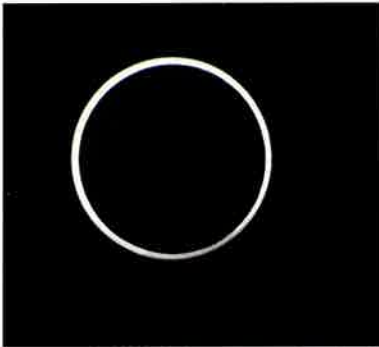
学園創立125周年記念事業の一環として、八王子キャンパスに「総合教育棟」が完成しました。免震装置を装備し、環境にも配慮した省エネルギー設計の最新の技術が取り入れられています。竣工までに「現場見学会」など、大学の授業に生きた教材としても活用されました。

また、八王子キャンパスでは野球場・サッカー場・テニスコート・ハンドボール場・中高グラウンドなどの人工芝化も行い、美しい緑の人工芝のうえで、思いっきりスポーツを楽しむ姿が見られるようになりました。

今後は、弓道場やボクシング場も新たに建築準備中で、八王子キャンパスは未来に向け、さらに生まれ変わっていきます。



## 学園夢企画「天体観測委員会」が 金環日食の観測に成功



学園創立125周年事業の一環として2011年度に開始された、学生・生徒の「夢」を実現する企画「学園夢企画」のひとつ「天体観測委員会」による金環日食観測会が5月21日、行われました。

天体観測委員会は中高天文部を母体として運営しております。今回の「金環日食」は、東京では173年ぶりに見られる滅多にない現象です。生徒たちは、50×100cmの眼視用遮光シートを入手し適当な大きさに切って使用。カメラは個人持ちのもの、夢企画で昨年買った1台、顧問が持ち込んだ十数台を使い、思い思いに撮影しました。日食メガネもこのシートで作って、全員に配布することができました。

当日の朝は6時18分から欠け始めるため、家から登校というわけにはいかず、近距離の生徒以外は松

風舎に宿泊して早朝の観測に備えました。あいにく、中間試験前日でしたので、生徒は前の晩一生懸命勉強しておりました。

一時曇りのお天気で、金環日食の全過程を観測することはできませんでしたが、徐々に肌寒くなり夕方程度の薄暗さになり最大食分の頃は晴れ間から観測できました。

顧問 會田 雄二(中・高理科教諭)



## 新宿・八王子キャンパス 初の同時合同訓練を実施



新宿キャンパスにてAED・心肺蘇生法講習を受ける学生や教職員

工学院大学では、首都直下型地震を想定した地震防災訓練を2007年から毎年行っています。今年は初めて新宿・八王子両キャンパスの同時合同訓練を実施しました。11月14日の14時10分に震度6弱の地震が発生したという想定のも

と、それぞれのキャンパスで同時に初動対応、応急対応などの訓練を行いました。いざというとき他者を助けられる「支援者」として必要な知識やスキルを習得すべく、傷病者の応急手当や搬送方法などの体験型訓練も行われたほか、一般の電

話回線を使用しないIP電話による新宿・八王子キャンパス間の情報共有訓練も実施されました。なお、この訓練には、企画・準備から実施・運営に至るまで学生が携わっており、教育の一環としての役割も担っています。

### 受講のご案内

## 工学院大学オープンカレッジ・孔子学院

- オープンカレッジ・孔子学院の主催する講座は、年齢、性別、学歴を問わずどなたでも受講できます。
- 一部の講座では、講義内容、専門性から受講対象者を設定しております。講座のお申し込み前に受講相談なさることをお勧めいたします。

**受講相談／TEL:03-3340-1457**

孔子学院主催の中国語講座は、事前予約制の授業参観（異なるレベルを学期中3回まで）ができます。ご自分のレベルに合ったクラス受講にお役立てください。

**参観予約／TEL:03-3340-0979**

**4月期 受付開始日／2013年3月1日～**



## 学園創立125周年記念事業 東京駅丸の内駅舎復原模型製作プロジェクト

2012年10月に保存・復原が完了した東京駅丸の内駅舎。本学と縁の深いこの建物が、本学の創立125周年を迎える年に復原されることもあり、学園創立125周年記念事業として「東京駅丸の内駅舎復原模型製作プロジェクト」を結成。建築系の大学院生・大学生有志たちが復原模型をつくりあげました。

模型は、復原された創建時の姿と、復原前の戦災後の姿の双方を、構造もふくめた違いがわかるように表現。木材やプラスチック、樹

脂など、使用箇所に併せた多様な材料を用いて実物に近い質感を持つ本格的な模型づくりに挑戦しました。

模型は創立125周年記念式典・祝賀会の会場ホワイエに展示され、報道各紙にも「本物そっくり」と絶賛の記事が掲載され、注目を集めました。



## 教える立場を経験し学ぶ絶好の機会に 今年も開催「諏訪市出張理科教室」



諏訪中学校にて学生・生徒全員。その数なんと300名!

11月18日、長野県諏訪市で「つくて、さわって学ぶ!出張理科教室」を開催しました。諏訪市での出張理科教室は三回目の開催となり、前回は大幅に上回る約1,800名以上が来場され、諏訪市立諏訪中学校を会場として、16種類の演示テーマを実施。指導に当たるのは、本学の大学生・大学院生・高大連携高校の生徒が中心で、子どもたちとのふれあいを通じて相手の立場に立って教えることの大切さを学ぶ絶好の機会となりました。

本学は、諏訪市教育委員会の要請を受けて、2010年度から「諏訪市出張理科教室」を毎年開催しており、諏訪地域の子どもたちが多数参加する人気の理科イベントになっています。当日はたくさんの方が家族連れで来場され、親子で協

力して楽しみながら実験や作品の制作に取り組む姿が多く見られました。終了の際には、子供たちが自分で作った作品をいくつも大事に抱えて、「また来年も来ようね」という喜びの声と笑顔があふれていました。



医療用材料で夢中でスーパーボールを作る地域の子どもたち



茅原健

学校法人  
工学院大学創立125周年記念  
特別企画

1934年、東京に生まれる。中央大学法学部卒。工学院大学に勤務。同評議員、同学園開発本部長、エステック(株)専務取締役、工学院大学参与などを歴任。また、(財)日本私学教育研究所専任研究員、事務局長、理事などを務める。  
主著：『民本主義の論客 茅原華山伝』(不二出版)、『新宿・大久保文士村界隈』(日本古書通信社)、『工手学校』(中公新書ラクレ) など。

# 古市公威 と 工手 学校

私がいち日休めば、日本がいち日遅れます



## 工手学校の想を練る

工手学校創立委員であり、第二管理長を務めた、古市公威の略歴から紹介しよう。古市は、安政元（1854）年、7月12日、江戸蠣殻町の姫路藩中屋敷で生まれた。幼名は兵庫郎。明治元（1868）年、開成所に入学。東京開成所（東京大学の前身）に進んだ古市は、フランス語の専攻による諸芸学を学んだ。「諸芸学」とは、統治者としての知識や技術を身につける学問である。明治8（1875）年、フランスに留学。パリ大学の十傑に数えられる英才ぶりを発揮した。古市の勉強ぶりは凄まじく、下宿先の夫人が「体に障るから少しは休みなさい」というと、「私が一日休めば、日本が一日遅れます」と答えたという。帰国後は、内務省土木局に入職。明治19（1886）年には、帝国大学工科大学学長に就任した。この頃、渡邊洪基と工手学校設立の想を練っていたのである。

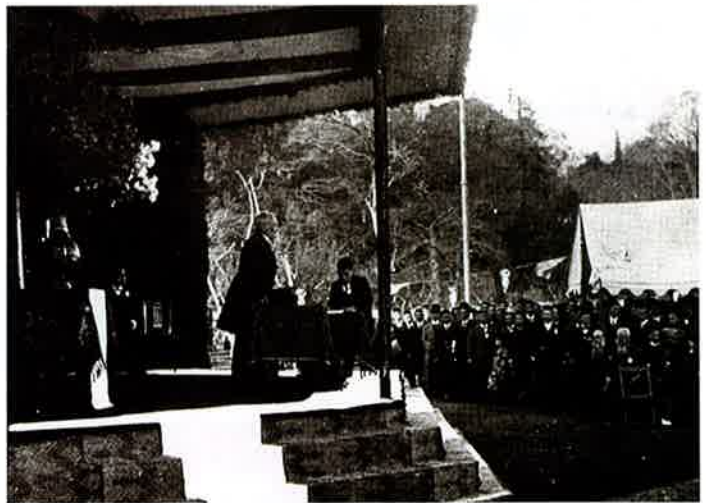
## 中興の祖

工手学校の歴史のなかで、古市公威を「中興の祖」と位置付けたのは、おそらく、『工手学校』（中公新書ラクレ）が最初であろう。工手学校創設の際には、渡邊に協力したが、渡邊洪基の死去に伴って第二管理長に就任してから、古市の土木官僚の手腕が発揮された。卒業生の就職先に意見を聞いて、学科目などの改革を試み、その質的向上に尽力した。

さらに、関東大震災で焼失した学校の再建には「本校はかつて皇室から御下賜金を賜った歴史があり、工業界に多くの人材を輩出した。その学校を孤児にするには忍びない」と言って、復興委員長に就任し、老躯を駆って工手学校再建に献身したのである。古市は30余年工手学校と共にあった。伝記『古市公威』（故古市男爵記念事業会）には、「工學院」の一節が設けられ工手学校との関係が語られている。ちなみに、工學院同窓会は、大正9（1920）年5月、神田一橋の如水館で開催した定期総会で、男爵を授けられた古市公威の祝賀の宴を開いて記念品を贈呈している。



関東大震災後の工手学校復興に尽力した古市を讃えて作られた胸像（新宿キャンパス・アトリウム）



創立25周年記念式典で挨拶する古市公威

## 土木学科

『工手学校』の書評を書いた松浦茂樹氏（東洋大学教授）は、「工手学校は、戦後には工學院大学へと発展した。しかし、その大学に土木工学科は設立されなかった。このため土木学会との関係は希薄となり、土木学会関係者にとって工學院大学における古市の存在は忘れられていた」と言っている（『土木学会誌』平成19・12）。工手学校の歴史、ひいては学園にとって、古市公威の存在は、渡邊洪基とともに重要であり、再認識されるべきだろう。

なお、工學院大学に土木学科が設置されなかった経緯については、『工學院大学 学園百二十五年史』（中央公論新社）の「土木学科の設置が見送られる」を参照して頂きたい。

## episode

- 古市は、「其の妙技常人に卓絶するものあり」といわれるほどに、「能」に造詣が深かった。『伝記』に「砧」を演じる古市の写真がある。
- 司馬遼太郎は、古市を近代文明の「配電盤」にたとえて、彼の行政手腕を高く評価している（『この国のかたち』文春文庫）。
- 三島由紀夫の本名は、平岡公威。三島の祖父・平岡定太郎が内務官僚時代に恩顧を受けた古市の名前をもらって、孫の三島に「公威」と名付けたという（平岡梓『倅・三島由紀夫』文春文庫）。
- 「先生實本邦工業教育之鼻祖」と銘板で讃えられる古市公威の銅像が東京大学構内にある。椅子に座って鳩杖はとつえを手にしたもの。この鳩をデザインした杖は、鳩は物をたべても咽ないということから、老人をいたわる意味で、宮中から下賜されたものである。その工事の台座の実施設計と監督に携わった一人に、東京大学助手時代の高山英華（元本学理事長）がいる（『古市先生銅像除幕記念』絵葉書）。

## 同窓生だより

1

●取材場所/新宿マインズタワー17F  
㈱ジェイアール東日本建築設計事務所 第2会議室  
●取材日時/2012年10月29日14:00~15:00  
●出席者 杉村貞夫/㈱ジェイアール東日本建築設計事務所 相談役(前社長)  
大内田史郎/東日本旅客鉄道株式会社  
東京工事事務所助役  
川崎香織/㈱ジェイアール東日本建築設計事務所  
設計本部 第一設計部  
谷口宗彦/司会 工学院大学建築学部建築デザイン  
学科 教授 校友会 企画・広報部 部長  
大場光博/取材・撮影 校友会 企画・広報部 理事



左より、谷口宗彦、川崎香織、大内田史郎、杉村貞夫

# 東京駅 丸の内駅舎 保存・復原

2012年10月1日、永年「赤レンガ駅舎」として人々から親まれてきた東京駅が約5年にわたる保存・復元工事が完了した。設計者は工手学校造家学科(後の建築学部)を立ち上げた辰野金吾であり、その当時の設計や工事には工手学校卒業生も関わっていた。さらに今回の保存・復元工事に関しても、工学院大学の卒業生が重要な役割を果たした。その関係者に取材しました。



1914年ドーム内覧上げ





司会 / 谷口宗彦 「東京駅の創建時には、工手学校の造家学科を設立した辰野金吾と、工手学校卒の小笠原鋳、松本與作などが参画しました。この度の保存・復原工事にも、工学院大学出身の杉村貞夫さん、大内田史郎さんのお二人が関わっています。歴史的にみても大変誇りになると思います。」

杉村貞夫 「私は工学院大学1968年卒、吉田辰夫研究室。同年国鉄入社、1987年JR移行を経て2000年JRE設計に参りました。東京駅には国鉄、JRを通じ主に本社の計画部門で折々担当しました。JRE設計は本プロジェクトの立ち上げの各種委員会の運営、基本計画、設計、工事監理を請け、私はその間担当役員、社長として全般に深く関わってきました。」

大内田史郎 「私は工学院大学大学院1999年修了、澤岡清秀研究室。入社後2年間は長野に勤務し、2001(平成13)年から東京駅に携わり、2006(平成18)年に東京大学大学院の鈴木博之先生(現青山学院大学教授)の指導のもとで東京駅丸の内駅舎の復元の研究で博士号を取得するなど、11年半の間携わりました。」

### 昭和20(1945)年の空襲と再建

1945(昭和20)年5月25日B29の焼夷弾の直撃を受けて、東京駅のドームや内装などが焼失。1947(昭和22)年に再建。この工事でドーム部分が八角屋根となり、2階建て駅舎として復興工事が完了しました。その

後は、2003(平成15)年に、丸の内駅舎が国の重要文化財に指定。現在、東京駅の1日の乗客数は約38万人です。

### 赤レンガ駅舎の保存復原 2007年に着工。

杉村 「これまで国鉄やJRの建築関係のスタッフは東京駅を本当に大事にしてきました。今回の保存・復原工事についても鉄道員魂も発揮されたのか、1つの妥協もなく見えないところまでとことん作り込んでいます。国をあげて、文化庁などにも一生懸命協力して戴きました。本物を作ったという感じがしています。多分、お客さまがご覧になればなるほど、愛着を感じて頂けると思います。」



丸ノ内南口改札口



もあり、立派なものです。」

大内田 「残された図面や写真を解析したうえで、焼失したドームや戦災復興工事で撤去された3階部分を忠実に復原しました。また失われつつある左官や板金の技術など、創建時に使われていた仕様や工法もできる限り生かすようにしました。」

### 「東京駅が街になる」東京ステーションシティのプロジェクト

東京駅が街になる。"通過する駅"から"集う駅"を目指して、駅を一つの街のように進化させることが東京ステーションシティプロジェクトのコンセプトです。東京駅を中心とした周辺地区も一体となって都市景観をつくる取組みも進められています。

谷口 「これまでの100年、そしてこれからの100年に向かって、東京駅は益々貴重な文化財になっていくと思います。卒業生の川崎香織さんにはこの取材や資料などのご協力を頂きました。皆様、ご協力ありがとうございました。」



「大内田君は、JRE設計に出向して設計にも携わり、JR東日本では工事監理の総括という一番リーダーシップをとるポジションにいて工事に関わっていました。」

大内田 「入社3年目から、東京駅の担当になりました。東京駅に関する委員会は「丸の内駅舎保存・復原」「駅前広場整備」「容積移転」など複数あり

ました。」

谷口 「東京駅の保存・復原工事にはおよそ500億円が必要になり、「空中権」譲渡で調達され、周りのビルも高層化することができたと、新聞記事を拝見しました。」

杉村 「今回の仕事は辰野金吾の東京駅を再評価する役割にもつながります。現役の駅舎という意味で機能からのニーズもあり、数多く最新の技術とデザインを取り入れて設計されています。平成の再設計とも言えるのではないのでしょうか。日本設計からJRE設計にお迎えした田原幸夫さんが設計の統括をされました。大内田君は現場の最前線に張り付いて見守り、ひたむきな研究者でもありました。皆が認めるところで



# 星本健一

学歴  
 1968年 練馬区立開進第3中学校 卒  
 1971年 工学院大学附属高等学校普通科 卒  
 1975年 工学院大学建築学科 卒

職歴  
 1975年 京一建設株式会社 入社  
 1978年 有限会社大成デザイン研究所 入社  
 1988年 株式会社シティープランニング  
 一級建築士事務所開設 代表取締役  
 1996年 株式会社アシスト開設 (調剤薬局) 代表取締役  
 2009年 株式会社WECAN開設  
 (スポーツ振興企業) 代表取締役

## 同窓生だより

2



タイムアウト間の作戦指示

# 日本の バスケット 活

defense



笑顔のリーグ戦優勝  
スタッフと共に

### 大学リーグで4冠達成

青山学院大学男子バスケットボール部は2010年、関東大学選手権、関東大学新人戦、関東大学リーグ戦、全日本大学選手権の全てに優勝し4冠を達成しました。本校卒業生で日本のトップコーチである星本コーチが指導して成し遂げた快挙でした。

### アドバイザー、そしてベンチ入り

1999年、大学リーグにおいてバス

ト32と成績が振るわなかった青学大の長谷川監督の要請を受けて星本コーチがアドバイザーとして練習、合宿に参加することになりました。2006年正式にAコーチとしてベンチ入りし、常に安定した高い勝率のバスケットチームを目指し戦術面を強化しました。その結果、期待に応えて4年間で常勝チームとしての力を蓄え、シーズンを通してパーフェクトな成績を残し、4冠達成を現実のものとししました。そして、それを見届けるようにして青学大コーチを退き、現在はシャンソン化

粧品 (静岡) をサポートしています。

### 心臓も筋力

青学大はスタッフが充実しています。特にトレーナーが走力、筋力のトレーニングを緻密なスケジュール管理のもとで行い、監督、コーチがファンダメンタル (基礎) からディフェンス、ブレイク (速攻)、オフェンス練習と密度濃く指導します。現在のゲームのルールは24秒以内にシュートに持ち込まなければならず、常にスピード



が要求されます。その上に粘りのあるディフェンス、3ポイントのシュート力など際立った体力が要求されます、先ず、走れないとバスケットになりません、心臓も筋力です。3日に一度は必ず心臓も含めてバスケットで使う筋力は全て追い込みます。23秒以内で正式コートの2往復半のダッシュを反復したり、瞬発力アップのために、重量挙げのスナッチやジャークで、背筋と全体の筋肉に極限までの負荷をかけます。同時にハートレートモニターで心拍数を計測し、各選手ごとの心臓の能力と回復力をチェックします。厳しいトレーニングで定評がありますが、



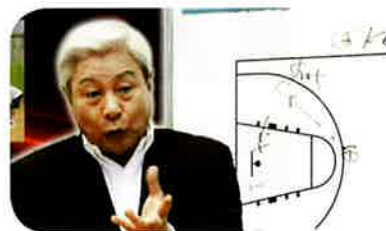
青学大の合宿に参加する有名選手達(相模原アリーナにて)

その効果を伝え聞いた日本のトップリーグの有名選手たちが、オフシーズンに進んで青学大の合宿に参加して来るようです。

### マッチアップゾーンディフェンス

青学大は交流校として韓国の延世大と親善試合を続けています。韓国バスケットボール界の重鎮で、国家代表チーム監督、世界コーチ協会副会長、ゴンドン大学総長等を歴任、現在韓国バスケットボール協会会長の方烈先生は、韓国バスケットボール界のレベルを高めた理論家です。先生の提唱する「マッチアップゾーンディフェンス」は東洋人に最も適した戦法であるとした星本コーチは、私費を投じて方烈先生を日本に迎え、青学大の相模原アリーナにおいて、選手、スタッフ

全員を集め、長時間にわたって懇切なレクチャーを受けました。その全てをビデオに記録し、毎日の練習で反復して行い、対戦相手にとっては容易に崩すことが出来ないディフェンスの戦法を、チームのものとして完成し、実戦に役立てました。



「マッチアップゾーン」の真髄を語る方烈先生

### 指導者との出会い

星本コーチのバスケットボールとの関わりは、全国大会第3位の実力校開進第3中学校(練馬)で、当時の川島監督に3年間基礎を教え込まれたところから始まります。

# ボール界に 力を

offence

木村さんの教える愛知学泉(愛知県安城市)でバスケットの理論を勉強する機会に恵まれ、コーチとしての基礎ができたようです。

### 日本のバスケットボール界に活力を

星本コーチは複数の会社を経営しながら、全国から要請されるバスケット教室などで直接指導のクリニックを行い、同時にバスケットボールを通じて、交流と親善、普及、育成強化を支援するスポーツ振興企業「株式会社WECAN」を主宰しています。後進の育成のほか、広範囲での活躍です。アジアや世界の舞台へ日本のバスケットボールチームが飛躍することを願いながら、忙しい毎日を送っています。

(取材:校友会 企画・広報部 理事 木本勝正)

新潟アルビレックスとのエキジビジョンマッチとクリニックの合間に~左は当時のNBAレイカースのクーバー選手、右はマジック・ジョンソン選手



工学院高校では多摩地区でベスト8に入る実力でした。工学院大学に上がると八王子高校、都立立川高校などの強いチームから粒ぞろいの選手が集まっていて、大変期待が持てるバスケット部になっていました。そんな時、木村功コーチ(教育大、愛知学泉監督、デンソー、シャンソン化粧品と名門女子チームのヘッドコーチを歴任)にめぐり合いました。一緒に女子高校のコーチをしたり、クラブチームの大会に出たりしていました。縁とは面白く、大学2年になった時、木村さ

んの同級生で教育大バスケット部を卒業した渡辺先生が工学院大の先生として来られ、バスケット部監督として指導を受けました。それからの工学院は急成長して、理工系リーグでは敵なしで、毎回優勝したほか、MVP、得点王、アシスト賞、リバウンド賞など、工学院大で全てを独占していました。大学を卒業してからも、豊島区のクラブチームに所属し、都大会に出たりしていました。チームメイトには全日本の選手達がいって、その多くがミュンヘンオリンピックで活躍しました。その傍ら、



星本コーチ協力による、恒例の八王子バスケットボール教室

# オイレス工業 株式会社を 訪ねて

オイレス工業株式会社  
**岩倉 勝**

略歴

- 1971年 富山県立井波高等学校卒業
- 1975年 工学院大学 機械工学科卒業
- 1975年 オイレス工業株式会社入社、中央研究所配属
- 1980年 Oiles America Corporation 出向
- 2011年 取締役 上席執行役員 軸受第二事業部長



オイレスベアリング（自己潤滑性軸受）



オイレス製品展示室

小雨降る秋なかばの寒い日に、藤沢市のオイルス工業株式会社で活躍するOBの岩倉勝氏を訪問した。温かく迎え入れてくれ、自ら会社の概要説明と工場見学案内を行い、その都度従業員にも目を配り指導もされていた。そのときの印象は責任を備えた技術者であると強く感じた。特に研究開発で使用している自社開発の各種試験装置については熱心に話してくれた。

このオイルス工業には歴代活躍されたOBとして元取締役の笠原又一氏や元会長の佐藤英二氏が居られ、我々OBにとっても誇りに思う。

会社の主力製品は自動車をはじめ各種産業機械に幅広く採用されているオイルスベアリング（自己潤滑性すべり軸受）、建物や橋・道路を地震の被害から守る免震・制振装置等である。日本におけるオイルスベアリング研究の先駆者である同社は昭和27年に本学・工手学校出身の川崎宗造氏が株式会社日本オイルスベアリング研究所として設立し、長年にわたる研究開発で培ったトライボロジー（摩擦・摩耗・潤滑）技術によって、多くの特許製品を開発している技術開発型企業である。

岩倉氏は富山県のご出身で、県立高校のとき「ものづくり」に興味を持ち、出来れば東京の大学ということで本学機械工学科に入り、4年次に高分子材料研究室の大柳先生指導のもと「廃棄プラスチックの応用研究」を通してプラスチック材料を学んだ。また、研究は3人による共同研究で、チームワークや友人の大切さを学んだことも入社後に非常に役立ったと語っていた。

就職は研究室の山口教授の推薦で昭和50年に入社、中央研究所に配属され、金属系・プラスチック系すべり軸受の研究開発に携わり、水車、ダムおよび長大橋のタワーリンク用の金属軸受開発や自動車用プラスチック軸受の用途開発に長年傾注されていたとの事。とくに水車用、長大橋用金属軸受での実機縮小モデルでのシミュレーション試験、自動車用プラスチック軸受開発での不具合が発生し徹夜での原因究明・対策等の話をされ、長年の研究開発を通じて技術者として次のような事が非常に重要と思っているとの事。

● 思い込みを排除して、まずは調べてみる、やってみるにより事実を観察する。

● 観察された事実に基づいて仮説を立てる。

● 立てた仮説が正しいか否かを実験により検証する。

● 目標達成への強いこだわりを持って、上記のPDCAサイクルを回す。

< Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）>

技術開発業務を通じて、専門誌への「自動車におけるプラスチック軸受の応用」のタイトルでの投稿(1991年)、また1999年には「プラスチック製ユニット軸受の開発」で社団法人日本トライボロジー学会の技術賞を同僚社員と受賞されている。

岩倉氏によれば会社は長年、自主技術開発を大事にしており、技術者は自由に研究開発ができる環境であり、苦勞もしたが、失敗を恐れずに種々の開発に従事でき、非常に感謝しているとの事。

なお、岩倉氏は1980～1982年にオイルス工業の北米子会社（ミシガン州）にセールスエンジニアとして出向されている。当時は日系自動車会社もまだ現地生産を開始しておらず、ビッグ・スリー（GM, Ford, Chrysler）の設計部門に毎日のように訪問し、日米の考え方の違いや、英会話に対するコンプレックス解消等、貴重で有益な2年間の駐在生活であったとの事。

現在は経営の任にあたる取締役として、「企業にとって大切なことは永続性

であり、社会に対する貢献も社員の幸福も会社が持続してこそ可能です。次世代に負の遺産を残すのではなく、将来の収益源を見出して、会社の存続と発展のために努力していく事が大事である。」と社内報で抱負を述べられている。



テクニカルセンター

「本学の在学生への一言」をお願いしたら、自分の反省から時間に余裕のある大学時代こそいろんな事に挑戦し、かつ専門知識と語学力を身に付けるよう努力して欲しいと述べられました。

自動車部品のグローバル統括責任者として国内に加えて、北米・欧州・中国・タイ・インドの海外子会社、顧客への海外出張等、大変忙しい中で、貴重な時間を割いていただき、私にとっても大変有意義な訪問でありました。有り難う御座いました。

今後とも御身大切にされ、御社の発展と世の中に貢献されんことを願います。

（取材：校友会 企画・広報部 理事 田村久義）



建築用免震装置



九州工業大学  
情報工学院 客員教授  
工学博士 技術士  
**日原政彦**

Masahiko HIHARA

# 海外での 研究交流や 技術支援・ 指導をとおして



1496年代の鍛造機械:Mr. A.Taubenprunner  
(開発者、製鋼所の創業者)

## 同窓生だより

4



「左上」:デンマークからスウェーデンに車で入り郊外の民家。「右」:スウェーデンの高速道路にあるサービスエリア。「中央」:スウェーデンのウッデホルム製鋼所に訪問した時に研究者とレストランでの会食(日本の国旗を飾って歓迎してくれる。)

過日、工学院大学校友会の先生から校友会への話題提供をお願いされた。そこで今まで金型材料に係る研究や企業指導を行ってきた。最近では海外訪問の機会が多く各国との技術協力や企業指導を行ってきたので紹介したい。

### 日本の金型製造業は！

日常皆さんが手にするプラスチック製品、CD、TV、自動車部品など多量生産品の製造は金型を用いて作られ産業界に大きく貢献している。日本

の製造業(プレス、プラスチック、鋳造、鍛造、ダイカスト、ゴム型、粉末冶金、ガラス型)の発展は金型が無ければ、今日の「物づくり」の国際競争力を維持できないくらい重要な産業である。最近こそTVや新聞で金型産業を紹介されるようになったが、以前は金型とは何ですか?と言う状況であった。

金型産業の出荷額を機械統計(20名以上の事業所を対象とした出荷額)と工業統計(3名以下の事業所は除外している)から見ると、H22年(2010年)の機械統計による出荷

額は約3148億円、工業統計は1兆873億円程度になり、2007年から連続に低下している。この低下はリーマンショックと日本企業における生産拠点の海外展開による影響である。

今後これらの産業における生産拠点は益々海外に移行し、特にアジア諸国やBRIC's(ブラジル、ロシア、インド、中国)やVISTA(ベトナム、インドネシア、南アフリカ、トルコ、アルゼンチン)の国々およびメキシコ、カンボジア、ミャンマーなどに自動車産業、電気・電子、家電、日用

品、建築産業など多くの産業が生産拠点や活動拠点を移していくものと感じる。そこで企業における日本での生産活動は益々厳しい状況になると考えられる。

特に、金型産業の中心は自動車産業が担っているが、海外展開の動向により国内の関連産業に大きな影響がある。厳しい金型産業においてもアジア諸国の産業発展のための援助や高品質な生産形態を持つ日本企業の海外展開は新興国の経済支援に対して大きく貢献している。

以前では国際会議や企業訪問は仕事柄ヨーロッパが多かったが、これらの国々はともに長い歴史的背景や高度な技術を持ち、産業発展に指導的役割を持っていたので日本の技術者にとって非常に勉強になり良い経験をした。

日本の産業はこれらの国々からの技術支援や自己習得・自学自修によ

り進歩・発展してきたが、日本国民の勤勉さとサークル活動などのグループ力により近年の産業基盤を築いてきた経過がある。

このような背景からアジア諸国を比べてみると産業生産レベルは各国の文化・習慣の違い、企業の勤務形態・生産体制の違いおよび従業員の企業への帰属意識が著しく異なることが多い。

近年の日本企業は、台湾、韓国、中国(華北、華中、華南の地域)、タイ、インドネシア、ベトナムなどに進出して各国では著しい発展をして来ている。

これから日本企業において国内生産は厳しくなり国際化が進み、多くの企業技術者が海外に訪問・駐在して現地で操業を行う機会が多くなると考える。現地従業員との連携は各国

による歴史文化・習慣の違いがあり、戸惑うことが多いと考えるが、現地の事情を理解して企業に貢献する必要があると感じている。

なお、日本は3人よるとグループで話し、改善・改良して高精度の製品を作ろうとする気風があるが、アジア諸国になると情報は個人が保有することで他人にはなかなか流さない、教えない気風が強い。また、従業員の会社への帰属意識や貢献意識が少なく、給与が最優先して簡単に退職し、他の会社に移ることが多いので日系企業では人材の確保に非常に苦心している状況でもある。

個人の感覚と経験から現在の金型産業の状況を述べてきたが、一見は百聞にしかず。若い方々は大いに視野や見聞を広げ国際的な感性を身につけて戴けることを願いたい。



「上」:日本の研究会メンバーによる台湾のマグネシウム(Mg)ダイカスト企業訪問。  
「下」:台湾精華大学での懇談会でのスナック。往時の熱処理技術の大家(故)大和久重雄博士と台湾大学教授の黄振賢博士の元氣な姿が印象に残る。

上海(上海賓館)で行った金型関係国際会議風景、日本に比べ会場設営は豪華。  
「右」:北京-天津間の高速度鉄道(和諧号)



1946年山梨県生まれ

●学歴

1986年 工学院大学専修学校機械科152回卒業、  
秋田大学鉱山学部冶金過程修了

1989年 技術士(金属部門)合格・登録

1991年 東京大学大学院博士課程後期博士過程(工学博士)

●職歴

科学技術庁金属材料技術研究所(現 独立行政法人 物質・材料研究機構)勤務後、

山梨県工業技術センター研究開発部長を経て、2000年退職

ウッデホルム株式会社技術本部長、技術顧問

九州工業大学客員教授(非常勤講師)

国内海外の技術アドバイザー(中国、タイ他)

●受賞

ダイカスト協会「小野田賞」、型技術協会「技術賞」

「Denver X-ray Conference-Best presentation award」受賞、

型技術協会「技術賞」「論文賞」「功労賞」



The 3<sup>rd</sup> Thailand-Japan Die and Mould Technology Symposium (The 1<sup>st</sup> Time outside Japan)



「右」:タイにおける日本-タイ国技術協力の調印式(型技術協会役員とタイ政府の関係者)。  
「左」:国際会議の様相と講演者の紹介をタイ新聞に掲載。

# 「ねじれ管による空気輸送の開発と実用プラント」について

## 『化学工学コース』 入学と就職

### 武谷 孝生

●1937年11月生 ●出身地/福岡市  
●学歴  
1957年3月 西南学院高等学校(福岡市) 卒業  
1964年3月 工学院大学工業化学科 化学工学コース 卒業(福岡研)  
●職歴  
1964年4月 日本曹達(株) 入社  
同 日 日曹エンジニアリング(株) 出向  
1995年4月 日曹エンジニアリング(株) 技術研究所所長  
1998年4月 日曹エンジニアリング(株) 定年退職

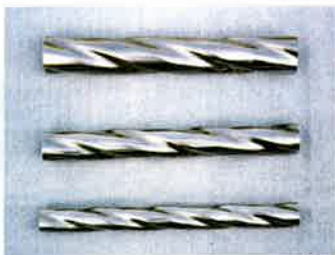


写真1

図2 S管(ねじれ管)外形および断面図

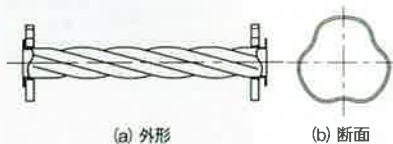


写真2

### 入学と就職

国公立大学は落ちてばかりで、私立に自分に向いている学科がないかと、当時学校紹介が掲載されていた「蛍雪時代別冊」をめくり私立で唯一当校に化学工学コースがあったので、受験し面接の際福岡先生から「どうして化学工学コースを希望か」と聞かれたので「物理・化学も数学も好きだけれど、良く判らないけれども、化学工学は工業化学と機械工学の両方が学べ、工場を造ることを学ぶらしいので、そのような仕事がしたいから受験した」と答えたら「君それが化学工学だよ。是非化学工学コースに来たまえ」と合格もしないのに大変勧められた。

入学後も相談にのって頂き、卒論の時「プロセス制御」に興味がありやりたいと申し出たら、東工大の資源化学研究所の市川惇信先生(プリンストン大から帰られたばかりの時)の所に研究生として行き、アナログコンピュータでの制御や今後発展するであろう人口頭脳等について教えいただき、こんな世界があるのかとの思いであった。

市川先生は大変気さくで面倒見の良い先生で、国立環境研究所の所長や人事院の人事官等を歴任されました。私が技術研究所の時、日曹グループで「PCBの無害化プロセス」開発の時に、多くの方の知見を伺いたく、人事管



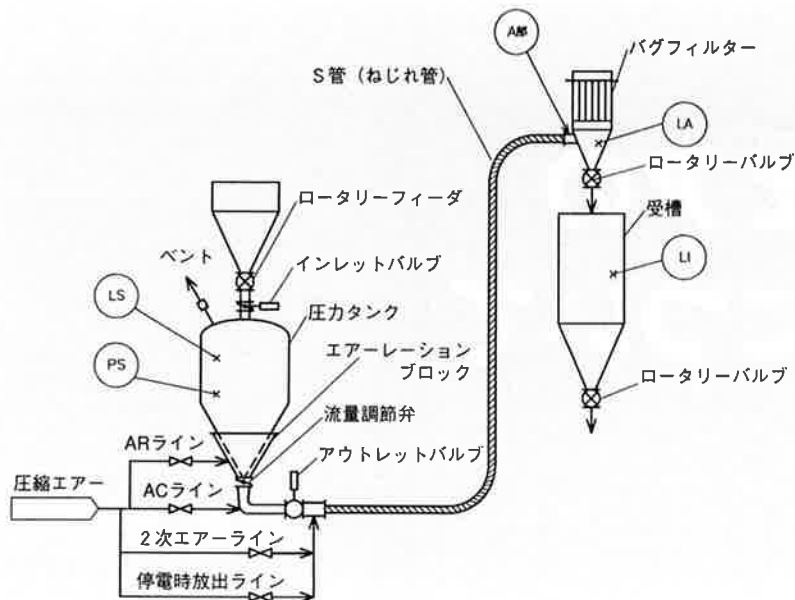


図1 システムフロー図

室に電話したら、秘書の方が直ぐ電話を繋いで頂き、国立環境研究所の方のご紹介をお願いしたら直ぐに、誰々君が一番知っているから、連絡しておくので訪ねて行くようにとおっしゃった。その後「PCBの無害化プロセス」は順調に稼働している。

本校にも大学院が出来るので、進学か、就職か迷って、福岡先生に相談したら、「僕の友人が会社を作ったので、給料は安い君に向いているから行かないか」と云われどんなちっぽけな会社かと思ったら、あまりにも大会社でびっくりした。

在職中は、大小さまざまなプラント基本設計に携わったが、比較的粉粒体関係のプロジェクトが多かった。

今回のねじれ管による空気輸送は、多くの先輩諸氏から引き継いだものを、研究所で実プラントと同規模の実験設備を設置し、データを取り実プラントの設計に生かした。この件について、研究所最後に纏め粉体工業会のセミナーで発表した。

### ねじれ管による空気輸送

皆様には、空気輸送はなじみが薄いと思われるかもしれませんが、家庭用の掃除機で塵を取ることを、工業的に効率良くした装置が低圧式空気輸送装置とってください。空気1kgに対し輸送する粉粒体kgを、固気比と云いS/Gで表し数値が大きいほど空気輸送の効率が良いこととなります。

空気輸送は、輸送する粉粒体にもよ

りますが、非常に輸送距離に影響されますので、距離が長いと圧力を高くしなければなりません。低圧式空気輸送方式は、短距離用でS/Gは1~10程度で、長距離はおのずから圧力を高くし加圧タンク輸送方式で輸送しS/Gは10~20程度までになります。

ねじれ管使用の超高濃度・高圧空気輸送システムは図1のシステムフロー図に示して在るように、圧力タンクに輸送物粉体を供給し、圧縮空気を吹き込みタンク内を加圧する際、エアレーションブロックにより、粉が空気と混合しあたかも水のような状態になる。設定した圧力まで昇圧した後アウトレットバルブを開き輸送を開始する。輸送が終了すると、タンク内圧力は急速に大気圧まで低下し1サイクルを終了する。この方式は高圧空気輸送と何ら変わることも無いが、輸送管に今までの円管で無く、ねじれ管を用いたことである。この特徴は超高濃度輸送において管内で形成される粉粒体ブロックが、ねじれにより剪断力を受けてほぐされるために圧密が防止され、閉塞に至るような硬く緻密なブロックを形成しないことにある。ねじれ管の外形と断面図を図2と写真1に示す。

実例として、S管50型の87mラインにおける重質炭酸カルシウムと塩化ビニル樹脂粉の混合比と風速データを図3、4に示す。

ねじれ管使用のGMP仕様小型空気輸送システムで、医薬、食品向けに開発したもので、粉粒体を女性でも投入出

来操作も簡単である。この写真を写真2に示す。

いかにねじれ管を使用すると、S/Gは飛躍的にあがり、概算で重質炭酸カルシウムを5~5.5t/h 40,000t/年程度の空気輸送の規模で10~12万kwh程度の電力差がある。ねじれ管は、微粉炭炉への輸送、スラリー輸送や砕氷の輸送等まだまだ応用範囲があると思われる。NSE技術開発研究所に、15Mから377M迄いろいろ距離に変えて、ねじれ管と円管が比較出来る設備がある。

大変雑駁な記事で申し訳ありませんが、もしご興味のある方は「配管と装置 37(10)、26~33(1997)」をご参照頂ければ幸いです。

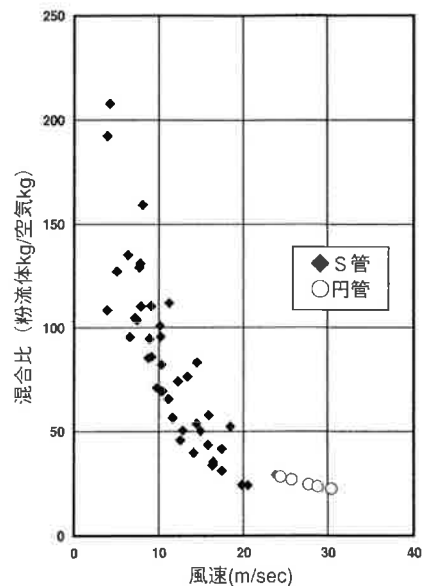


図3 重炭酸カルシウム輸送時の風速と混合比の関係

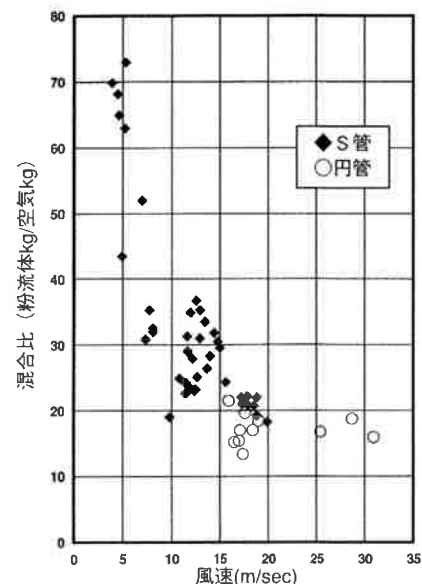


図4 塩化ビニル樹脂粉輸送時の風速と混合比の関係

# ソフトウェアの 品質保証について

後藤英樹

## 私の経歴について

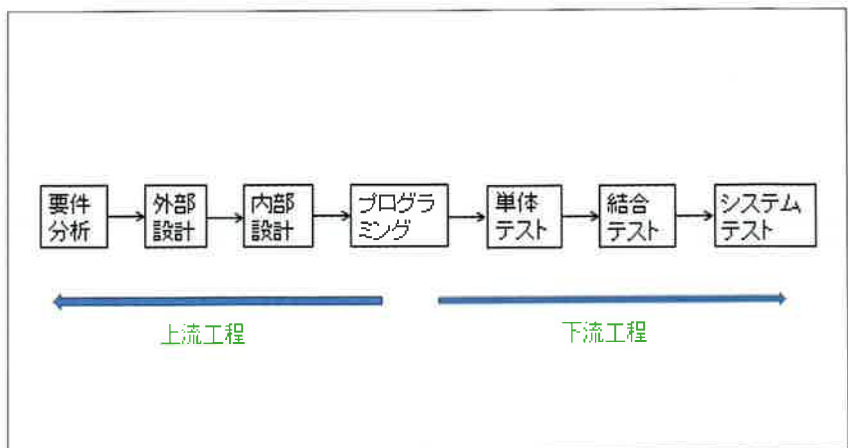
私は中学・高校の時、製品化され始めた PC でプログラムを作成することに興味を持ち、アルバイトで PC(Fujitsu FM7, Sharp X68000) を買い、ブロック崩しといったゲームなどを作成するのが好きでした。将来は会社でプログラムを作成する仕事に就きたいと思い、大学では電子工学科の情報工学コースに入り、ソフトウェアの理論やプログラム作成を学び、仕事をする上でのベースにしたいと考えていました。

入社後は、プログラムを最初から作成するという仕事ではありませんでしたが、マイクロソフト社が作成した MS-DOS というオペレーティングシステム(OS) で使われるコマンド(プログラムの一種)を東芝の日本国内向けの PC に搭載するために、日本語化を行う仕事から始め、その後は、PC に搭載する OS(Windows) やアプリケーション/ユーティリティをひとつの形にまとめ上げて、プレインストールという形で製造部門にリリースする仕事に約 15 年就きました。その後、約 5 年間、PC に搭載する無線 LAN 用のドライバやユーティリティの開発の仕事に携わりました。そして、2011 年 9 月に、現在の仕事である PC に搭載されるソフトウェアの品質担当になりました。

## ソフトウェアの 品質管理について

品質管理というと、まず、長い間故障しないように材質や形状を工夫して設計するとか、製造時の製品の組み立て方を工夫して歩留まりを良くするなど、どちらかというとハードウェアのことを目に浮かべる方も多いかと思えます。しかし、近年、製品の高機能化のために、組み込まれるソフトウェアの規模が拡大し、ソフトウェアへの依存度が急激に高まってきています。そのため、ソフトウェアに不具合(バグ)が含まれた場合の国民の生活に与える影響の度合いも大きくなってきており、ソフトウェアの品質管理がとても重要になってきました。

最近の事例では、銀行でのオンラインシステムや鉄道の自動改札機の障害があげられます。2007 年 10 月に発生した自動改札機の障害は、改札が起動せずに使えない状態になったというものです。この障害は改札を制御するソフトウェアの不具合が原因でしたが、報告によると、中央のコンピューターから自動改札機に、改札機の制御に必要なデータが送られたときに、改札機がそのデータを正常に読み込むことができずに機器異常となり、改札機がダウンしたとのこと。現象が発生するのが、改札機に送信されたデータ数がある件数以上、かつ、ある条件下で発生する場合であったということで、開発段階での検証の範囲が十分でなく、問題を見つけることができなかったようです。



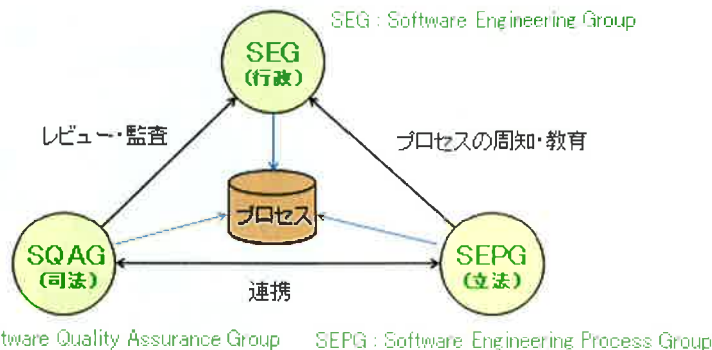
具体的に開発のどの段階で問題が入り込んだのかは不明ですが、現象を引き起こしたデータ数に関する処理については、中央のコンピューターと自動改札機の間でやりとりされるデータ数がシステム全体に与える影響について、内部設計時に有識者間できちんとレビューされず、設計仕様書に反映されていなかった可能性があります。また、プログラム作成時に、送信するデータ数をチェックし、必要に応じて適切な処理をするといったコードが抜けてしまった可能性もあります。いずれにしても、今回のような、ある条件で発生する問題は、テストで見つけることが難しいため、より上流の工程で問題をつぶすことがとても重要になります。また、下流で問題が見つかった場合、納期の遅れによる機会の損失や市場不具合での対応などに多くの時間と費用がかかることも、上流工程で問題をつぶすことの大切さにつながります。

## 品質管理への取り組みについて

私の部門でも、より上流の工程で問題をつぶす意識を持ち、開発開始からソフトウェアのリリースまでの各節目で、設計部門が作成したドキュメントのレビューや開発プロセスに対する指摘などを行っています。また、各開発での品質データを分析し、弱みを見つけ、それを改善するためのアドバイスを設計部門に行うなど、品質向上に向けての活動を行っています。

また、ソフトウェアの品質向上のためには、開発する人や品質をチェックする人のスキルを上げると同時に、開発プロセスの継続的な改善がとても重要です。社内では、下記に挙げるような活動が行われています。

- SPI (Software Process Improvement / ソフトウェアプロセス改善) 活動
- 品質プロセスの改善事例といった情報の共有
- 各部門での開発・品質管理をサポートする体制の構築



### ● 開発担当・品質担当向けの教育の実施

以下に、SPI 活動について簡単に紹介します。

SPI 活動では、役割分担として下記のような 3 つのグループを定義します。

SEPG (Software Engineering Process Group):

プロセスの定義・保守・改善を行い、また、設計部門 (SEG) に対してプロセスの周知 / 教育を行うグループ。

SQAG (Software Quality Assurance Group):

定義されたプロセスに対するチェック・改善提案を行い、また、SEG が作成したドキュメントのレビューを行うなどして、SEG がプロセスを守っているかを監視するグループ。

SEG (Software Engineering Group):

定義されたプロセスを使って製品を設計・開発するグループ。

SEPG と SQAG とで SEG を支える構図となっています。私が所属しているソフトウェア品質担当では、SQAG の立場で活動しています。

のよい製品を世の中に送り出し、みなさんに喜んでいただけるようがんばりたいと思います。

### 【参考文献】

1. 『自動改札機の不具合発生について』(日本信号株式会社、2010 年)
2. 『東芝におけるソフトウェアプロセス改善活動の推進方法 10 年目の SPI ~ 推進結果と今後の展望 ~』(株式会社 東芝 ソフトウェア技術センター 小笠原秀人、2010 年)



## 後藤 英樹

工学院大学 電子工学科 情報工学コース  
 1990 年卒業 椎塚久雄研究室  
 メールアドレス: hideki.gotoh@toshiba.co.jp

職歴  
 1990 年 ㈱東芝入社 青梅工場配属 パソコンソフトウェア設計部 パソコンソフトウェア第一担当 (Windows OS / プレインインストール設計)  
 2006 年 PC ソフトウェア設計第一部 第三担当 (Windows 無線 LAN ソフトウェア設計)  
 2011 年 品質第二部ソフトウェア品質担当  
 現在に至る

## おわりに

今回、ソフトウェアの品質保証について紹介させていただきましたが、各組織の状況・文化にあった改善の方法を見つけ、継続的に品質を上げていくことが重要だと考えています。設計部門と協力しながら、少しでも品質

## 同窓生だより

7

### 学歴・職歴

1958年東京都生まれ

佐野造船所8代目の父から13歳で船体設計を習い

14歳で約2.7mのディンキー（小型競走用ヨット）、

15歳から外洋ヨットの建造に独力で着手

1979年4月工学院大学専門学校造船科第173回卒

1984年～1990年4艇の外洋ヨットの設計・建造

1991年～1992年オランダ・ハイスマン王立造船所

1993年～1995年NHKアート勤務

1995年工房「SANOMAGIC」設立

（米国WoodenBoat社よりSANOMAGICの称号を与えられる）

2010年グッドデザイン賞受賞（マホガニー自転車）

セーリングカヌー、家具・インテリアのほか、

マホガニー製の自転車も製作し現在弾性支持スピーカーの

マホガニー精磨技術の活用を模索中

SANO MAGIC (<http://sanomagic.world.coccan.jp>)



2002年1月ドイツ・デュッセルドルフでのヨーロッパボートショーに参加（6.2mマホガニー製 ランチボート）



2012年1月イギリス国立博物館前で（T-2機）（半年間展示）

私と船づくりの関係は江戸時代から続く船大工の家に生まれた事から始まります。父は八代目、二百年以上の長きに渡り木の船だけを作り続けた家系です。そんな船大工の家に最も大きな変化をもたらしたのが工学院大学造船科(築地工手学校)との出会いではないかと思えます。高度な日本の技と西洋の造船学との融合が七代目の祖父、吉太郎の頃に初めて洋船を作ることとなります。生前祖父が「学問は決して邪魔になることはない」とよく言っていました。

私にとって祖父が出た(旧築地工手学校)現工学院は船屋になる為の最大の目標でした。造船科卒業後は数艇のヨットを建造しすぐオランダ王立造船所に渡りバブル崩壊直後、帰国しまし

た。親の造船所もその影響を大きく受けて木造ヨット中心からFRPやベニヤ板を使ったモーターボート製作へと変化していきました。私はヨーロッパにおいて日本人が作り続けてきた木造船こそ世界に認められるべき技術と信じていましたので独り実家を離れ日雇いからサラリーマンを経て3年後に工房を立ち上げました。2002年、ドイツのボートショーにマホガニーのモーターボートを出展、ヨーロッパ9社の新聞や雑誌にジュエリーボート、ミュージアムボートなどと紹介されました。2007年、リーマンショックの影響で船の仕事がキャンセルとなりこれを機にと木製自転車(ロードレーサー)に着手、この自転車は2011年9月から翌年1月まで英国国立博物館に飾られ同型の木

製自転車(ロードレーサー)が2011年秋のトリアスロンの世界選手権に出場、無事180キロを完走しています。近年はアマチュアライダーが一般のロードレーサー以上の性能と言われていています。船大工の技術が船ではなく自転車で世界に認められる様になったのは複雑ですがこの事は日本の職人技に西欧の学問が加わり成功したひとつの例と思えます。

ただの職人に知識を与えてくれた場が工学院であり、いまこの同じ学び舎で学ぶ後輩に祖父の言葉を送りたいと思えます。

「学問は邪魔にも荷物にもならずきつとあとで役に立つ。それが学問の得というものだ」と。その為には努力という言葉が必ずついてくるという事を若い人たちに伝えたいと思うこの頃です。

# 私と船づくり

## 佐野末四郎



2009年ユーロバイクショーにて



2007年2月デーセラー-21 進水

同窓生だより

8

# 工手学校の学生の ノートを発見

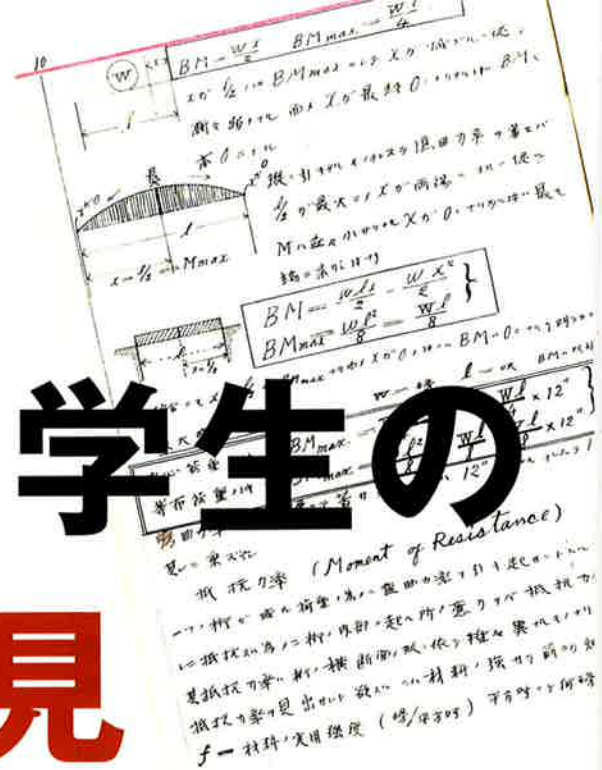


図1「橋梁」ノート(吉江貞三)

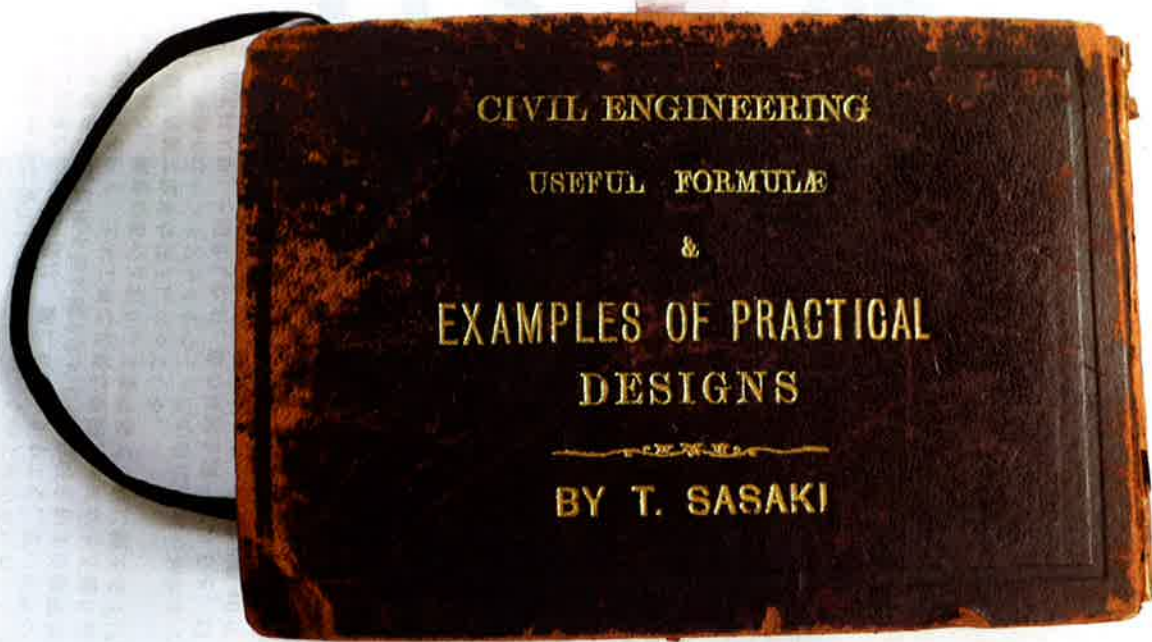


写真2「土木 須用公式設計實例 一編」(佐々木恒太郎編輯 丸善 明治33年)



## 三浦基弘

1943年、旭川生まれ。東北大学、都立大学で土木工学を学ぶ。東京都立小石川工業高校、田無工業高校に勤務。1993年、グラスゴー大学より研究員として招聘を受け、東京都より派遣。2004年定年退職。現在、田無工業高校ボランティア教員。東京学芸大学、大東文化大学などで非常勤講師として教鞭も振るう。著書に「物理の学校」(東京図書)、「東京の地下探検旅行」(筑摩書房)、「橋の文化誌」(雄山閣出版)、「光弾性実験構造解析」(日刊工業新聞社)、「日本土木史総合年表」(東京堂出版)、「世界の橋大研究」(PHP研究所)などがある。

工学院大学の前身は工手学校。一時期、この学校の非常勤講師をしていた渡邊嘉一のことを調査しているとき、当時の学生(吉江貞三 明治31年2月土木科卒業)のノート(図1)を偶然、長野で発見した。工手学校を工業高校のルーツという研究者がいるが、このノートを見るかぎり、現在の4年制大学の工学部学生に匹敵する、かなり程度の高い内容を教わっていたことがわかる。インターネットを利用し、「工学院大学、三浦基弘」で検索すると、この学生ノートを発見した経緯がわかる。

当時は講義の科目の教科書がない

ことが多く、学生は教科書を写すようにノートをとることが普通であった。授業を欠席すると、コピー機がなかったので、書き写すのが大変だったという。古老にお聞きすると、吉江のノートは特別ではなく、殆どの学生はこのようなノートを作成したという。授業の一部をのぞいてみよう。採鉱学科講師の青山秀三郎(後の東大教授)は、「君たちの講義は帝大の学生とほとんど同じだ。授業時間だけでは、講義は終わりそうもない。日曜日に3時間ずつ講義をしたい」といった。この申し出に学生たちは感激。休日もいとわず登校したという。また、建築を講じた森井健介(東京帝国大学工科大学建築科)は、帝大の教室とまるで異なる光景に驚いたという。手拭いのねじり鉢巻をした学生が、鉢巻を取って一礼。現場から駆けつけた職人である。帝大生と違って、現場経験が豊富で、実際のことをよく知っている。授業時間は夕方6時から9時まで。森井が教科書を閉じて帰ろうとすると、「先生、待ってください」と呼び止める。「ここの鉄筋のカブリはどうなっているのですか?」と細かく質問。森井の担当は鉄筋と鉄骨だが、現場サイドの詳しいことはよくわからない。しかし、教えている以上、森井はわからないといえない。学生は真剣そのものであったのである。

工手学校の卒業生は18,033人。そのひとり、第5回1891(明治24)年秋に土木学科を卒業した佐々木恒太郎(1869-1935 写真1)を紹介したい。関心をもったのは『土木 須用公式設計實例 一編』(佐々木恒太郎編輯 明治33年 丸善 写真2)を古本屋で見つけたからである。表紙は皮製で“CIVIL ENGINEERING USEFULL FORMULA & EXAMPLES OF PRACTICAL DESIGNS”と英文で



写真1 佐々木 恒太郎(1869-1935)

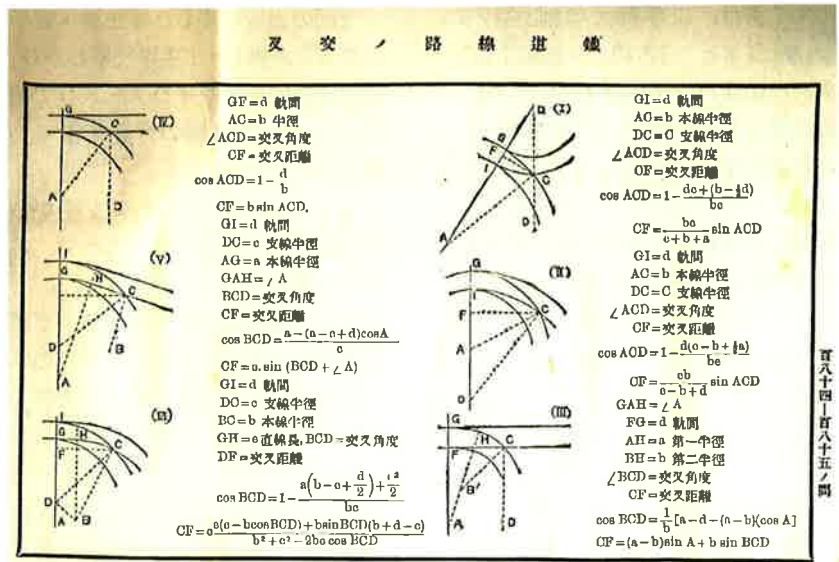


図2「土木 須用公式設計實例 一編」の鉄道工事関係図

記している。ページをめくると、「在工科大学 佐々木恒太郎編輯」が目にとまった。そして、『袖珍 公式工師必携』(田邊朔郎編輯 丸善 明治21年)のことを思い出した。この書籍は土木技術者のためのもので、日本初のハンドブックである。これに輪をかけて、実務的なハンドブックをつくったのが佐々木の袖珍本。先ほど、佐々木が「在工科大学」と紹介したが、彼の経歴を調べてみると、11年間、東京帝国大学土木工学科助手として勤務していることがわかった。『回顧40年史』(佐々木恒太郎著 1934年 東亜印刷(株) 非賣品)に経歴、業績などが記述してある。助手時代、田邊朔郎教授と接しているから、当然、このハンドブックに関して打ち合わせをしているはずである。しかも同じ出版社の丸善。骨材の材料表、単価、河川工事、隧道工事、鉄道工事などに必要な図(図2)、見積書、人数を具体的に提示してある。大変な労力である。この本は大正8年で8版。専門書としては異例の売れ行きである。

佐々木は工手学校を卒業後、神戸市役所に赴任し、吉本龜三郎(技師土木課長(工部大学校卒)の指導を仰ぎ、港の深淺測量、隣接町村の道路計画の基本地図の作成などの従事をした。その後、吉本が内務省土木監督署仙台出張所に転任に伴い、佐々木も一緒に異動し、技手として転じた。秋田県能代川筋の河川、港湾の測量などに従事した。工手学校で教鞭もっている。明治29年2月~35年1月、明治35

年2月~41年1月の時期に「製図」、「実地測量」を担当している。工部大学卒、東大卒の講師が殆どの中に混じっているということは、相当実績を積んだので選ばれたことが窺われる。1928(昭和3)年6月3~4日淀橋校舎落成式典があった。工手学校から工学院に改称した。二日目の式典は学生招待の祝賀会が行われ、最後に立った佐々木は、自分が尊敬していた親友が志半ばでこの世を去ったことを偲びつつ、「憧れの友へ」というメッセージを後輩に送った。

『回顧40年史』に妻峰子の記事がある。「主人が常に子どもに談して居ります事は人より頭角を顕すには、一般と併行して居ては駄目で機先を制する者は勝ちであるから、常に人より早く学び、人より新しき智識を求め、人より新しきものを早く見、早く知り、又人より多く努力と親切せねば成功は出来ない、と申して居ります。――私の家には何時も書生さんが居られます。其方々の行跡を顧みますと各方面の事業に従事されて居りますが、大學卒業生以上の成果を得て居られる方もあります。佐々木は実業者としてのみならず、教育者としても多大な功績を残した。

日本のシンボルの山は富士山。この山が美しいのは、裾野が広がっているからであろう。工手学校は、明治期、日本の工業立国の発展のために、大いに裾野を広げる役目を果たしてきたのである。工学院大学は、ことし(2013年)、126周年を迎える。

**本**書は、工学院大学創立125周年と、日本初の「建築学部」創設を記念して、同窓会誌「NICHE」に連載した工手学校・工学院出身の建築家の作品とその様々な活躍の系譜をまとめています。近代建築史家の藤森照信教授が創立当時の豪華な教授陣による教育者を紹介し、工手学校の研究者である茅原健氏が、創建当時の造家学科（建築学科）の学生達の授業・生活環境について生き生きと描いています。中心となる第2章は類洲環氏による13年間の連載記事「輝かしき先輩達」を再録し、13名の人物と人間模様を蘇らせる描写は、読み物として我々に作品を通して訴えてきます。最後の3章では外部研究者の方々による近年の研究成果をあわせ、工手学校から現代につながる、日本の近代建築の隠れた系譜を、幅広い視点で紹介し、客観的歴史的証言を行っています。また工手学校の歴史を改めて紹介することで、明治維新から近代国家をめざした日本が、その技術教育にいかんして臨み、当時の学生がどのように情熱を持って答えたか…125周年に相応しい卒業生達の軌跡をとおして「建学の精神」を見つめ直すよい機会でもあると思います。

今回の出版に際し、学生達・若手の読者を意識し「工手学校早わかり」など歴史的背景をイラスト入りで紹介したことで一層の好評を得ている。

早くもこれを読んだ学生達から「諸先輩方の活躍を知ることで、母校に対する誇りや自信だけでなく、私自身も後輩の手本となれるよう頑張りたいと思いました…」「この本を座右に置き、今後、工学院大学を母校として、むしる胸を張って自分の大学を名乗ることが出来ます…」など、感想が寄せられており、改めて本学における「歴史教育」「誇り教育」の重要性を喚起させる価値ある一冊である。(谷口宗彦)

「工手学校—日本の近代建築を支えた建築家の系譜—工学院大学」彰国社発売 定価1800円(税別)



工手学校——  
日本の近代建築を支えた建築家の系譜  
—— 工学院大学

同窓会七





解説用小冊子付き

## 重要伝統的建造物群保存地区

### 「日本でいちばん美しい町並」映像 DVD

#### いよいよ第1巻・第2巻を頒布開始

**1** 1975年の文化財保護法の改正により導入された、重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）の制度は、本学名誉教授で元学長の故伊藤鄭爾先生の調査研究が大きな役割を果たし、先生が研究に関わった橿原市今井町、岡山県倉敷、飛騨高山、北国街道海野宿は重伝建地区となり、日本を代表する歴史的町並として広く知られています。これらの貴重な資料は、「伊藤鄭爾コレクション」として本学が所蔵している。このたび「工学院大学創立125周年」を記念し、伊藤先生の功績の顕彰、大震災で被災した重伝建の復興支援、また重伝建の姿を未来永劫に記録する目的から、表題の制作に着手いたしました。この事業は全国98地区（2012年9月現在）に現存す

る重伝建をハイビジョン撮影し「日本でいちばん美しい町並」と題して、全15巻のDVDに集大成し海外を含め多分野に頒布する企画です。これはわが国初の試みで、建築学的記録資料、歴史的文化遺産の教材、地域観光活性化の観光資源となりうる極めて社会貢献度の高い文化事業であり日本経済の活性化につながる画期的なものです。制作費は建築学部同窓会が負担。頒布価格は1巻当たり3500円（税込み）。1・2巻セットで6500円（同）です。収入の一部は被災した重伝建保存地区の復興支援に充てます。ぜひOBの皆様、1セットお求めください。

詳細は本学ホームページをご覧ください。お問い合わせは、「アーカイブ実行委員会」TEL.0120(567)547



谷口宗彦  
工学院大学 建築学部  
建築都市デザイン学科 教授

## 「技術を事業化するノウハウを学ぶ」 大学院システムデザイン専攻のご紹介

工学院大学では「技術系の経営幹部」、「技術リーダー」、「技術力を基礎にした起業家の育成」を目的とした大学院システムデザイン専攻を2011年4月からスタートしました。

「グローバル化が急速に進む現在、社会からも企業からも新たな経済価値の創造が求められています。システムデザイン専攻では、高度な技術マネジメントの能力やセンスを養成することで、企業でのステップアップ、またキャリアアップや起業家を目指す方々の要望に応えます。」

●授業は「昼夜開講制」で、社会人の方も企業に在籍しながら仕事帰り

に学べ、本学の出身者は25万円の入学金が5万円に減額されます。

●社会人の方に対して大学院への道を開くための「社会人特別選抜入試」は、書類審査と面接のみでの選考で、入学時期も毎年4月と10月が可能です。

●社会人特別選抜入試は、4月入学の試験が毎年9月と2月に、10月入学の試験が毎年6月に行われます。

大学院システムデザイン専攻では、以下のような希望を持つ学部卒業生、社会人を受け入れます。

■特定の技術をもとに、将来、起業を考えている人

■エンジニアリングに基礎を置いた企業の経営者を目指す人

■マネジメント力を活用し技術者をして企業の中核となりたい人

■プレゼンテーション力などを身につけて、技術者や技術営業として活躍したい人

■企業の海外部門、外資系企業あるいは外国の企業で技術者として活躍したい人

詳しくは下記の「システムデザイン専攻ホームページ」をご参照下さい。

[http://www.kogakuin.ac.jp/another/sys\\_d/](http://www.kogakuin.ac.jp/another/sys_d/)

(文：工学院大学入学広報部長 小島孝治)

### 教員をなさっている卒業生・修了生の皆様、情報をお寄せください。

工学院大学教職課程からお願い

皆様ご存知のとおり2009年度から教員免許更新制が実施されることになりました。それに伴い、本学でも更新講習の開催準備をしております。詳細については改めて御案内いたしますが、卒業生・修了生の皆様にはぜひ本学での更新講習を受講いただくようお願い申し上げます。

この機会に本学卒業生・修了生で教員をされている皆様のネットワークを作りたいと存じます。卒業生・修了生で教員をされている皆様、学校種（小、中、高、特別支援等）や採用形態（常勤・非常勤等）にかかわらず、次の事項をお知らせくださるようお願い申し上げます。また友人、先輩、同僚など同窓生で教員をされている方をご存じの場合も合わせてお知らせ下さい。

1) お名前、2) 卒業学科（修了課程）、3) 卒業（修了）

年月、4) 取得免許状、5) 勤務校、6) 担当教科、7) 役職、8) 資料等送付先（自宅住所または勤務先所在地）、9) 電話番号、10) FAX番号、11) メールアドレス

連絡は、郵便、FAX、メールのいずれでもけっこうです。提供いただいた情報は教職課程として責任を持って管理し、大学としての資料送付と連絡にのみ利用し、それ以外での利用をしません。

※今後、教員になる予定の方のご連絡もお待ちしております。

<連絡先> 〒163-8677

東京都新宿区西新宿 1-24-2

工学院大学教員免許状更新講習担当

電話：03-3340-0947 FAX：03-3342-5304

e-mail：jimu-koshin@kogakuin.ac.jp

電気自動車は充電スタンドの  
 少なさも気になるけど、  
 それ以前に我が家の充電用コンセントを  
 どこに付けるかが問題だ。



解決!  
 シャッターゲートに付きました!

電気自動車充電用コンセント付き エコカーライフをお手伝い!

サンゲート

- 柱の内部に配線するのでコードが見えず外観スッキリ。
- 100V用と200V用との2種類のコンセントをご用意。
- タイマーを利用してお得な深夜電力での充電も可能。



三和シャッター工業株式会社

〒175-0081 東京都板橋区新河岸2-3-5

<http://www.sanwa-ss.co.jp/>

株式会社リビング百十番ドットコム (三和グループ会社)

お問合せは: 03-5348-7533 カスタマーセンター: 03-3346-3011

顧問 渡辺 静雄 (電気工学科:昭和39年卒 空手道部OB)

知的財産ビジネスの専門職集団

特許業務法人

太陽国際特許事務所

所長・弁理士・博士(工学) 中島 淳 (S44機械卒・H14大学院電気電子卒)

【機械建築担当弁理士】	福田浩志(副所長)	清武史郎*	堀江千鶴*	坂手英博*	針間一成
	永田淳一	高橋尚子*	河野元浩*	内田英男	中村 明
	御橋優子*	上野敏範*	澤田修孝	井上義美	片倉正博
	本合孝治	鴨志田伸一			長谷川洋
【電気電子担当弁理士】	加藤和詳(副所長)	百瀬尚幸	美濃好美*	佐久間顕治*	小早川千佳子
	山口真紀*	大古奈奈*	宮本治彦	大松崎明子	渡瀬美江子*
	島山明大	小林和幸	竹村勝年	田中宏明	木村直樹*
【化学材料担当弁理士】	西元勝一	並川啓志*	都野真哉*	上條由紀子*	下田世津子*
	設楽修一	西山 崇*	早瀬貴介	長野みか*	前嶋恒夫*
	有村昌大				小林美貴*
【バイオ医薬担当弁理士】	山中裕子*	醍醐美知子*	山極美穂*	膝館祥治	渡邊裕子*
	中川彰子	原 圭乃	村尾招子		伊豫田順子
【商標意匠担当弁理士】	関島昌子*	槌熊美智子*	高橋史保*		
【米国特許弁護士】	シェルダン・モス		チャド・ヘリング		
【中国弁理士】	董 昭		劉 蓉		
【韓国弁理士】	金 陵河				
【弁護士】	中野浩和				

\*特定侵害訴訟代理付記

東京本部

〒160-0022 東京都新宿区新宿4丁目3番17号

●電話 / (03) 3357-5171 (代表) ●ファクシミリ / (03) 3357-5180 (代表)

●<http://www.taiyo-nk.co.jp> ●相談・連絡用: info@taiyo-nk.co.jp

USオフィス / 米国バージニア州

# 2012年 各部会の活動報告

## 総務部



部長  
福田忠彦



副部長  
大津幹太郎



副部長  
飯塚辰典

### 理事

岩田秀明 福田忠彦  
横田 仁 渡辺征一郎  
大津幹太郎 久禮和彦  
島林正美 関谷真一  
飯塚辰典 山川義則

### 平成24年度校友会評議員会・総会および懇親会の開催

評議員会・総会は例年通り5月の最終日曜日(5月27日)に開催いたしました。今年度も昨年度の実績を踏まえ、講演会を総会とは切り離して実施し、特に今年度は特例民法法人としての最後の総会であり、移行に伴う「定款の変更」と言う大きな審議事項がありました。4月12日に第1回の総務部会を開催し、前年度の改善点を確認すると同時に、移行委員会との綿密な連携を取りながら準備を進めた結果、会員のご協力も有りスムーズに進行することができました。

### 学術講演会の開催

評議員会・総会との同時開催を止めたためにエクステンションセンターとの共催で進めることで検討を進めることにしました。しかし総会終了後は学園の創立125周年記念行事と

の関係もあり、3月1日に行う評議員会に合わせて実施予定し、テーマは福島原子力発電所の事故に関連して「放射能に関する正しい知識」を学べるようなものということで実施しました。

### 常任理事会・理事会及びその他会場の開催

前年度に引き続き一般社団法人への移行準備は新定款に基づき諸規則の改訂作業が具体的に進み、例年よりも多くの常任理事会、理事会を開催してきました。常任理事会12回、理事会を6回、そして第68回評議員会を開催致し次年度の理事、監事選出を行います。その他総務部会5回、選挙管理委員の選出、委嘱、委員会を5回開催しました。

### 一般社団法人への移行関連事項

一般社団法人への移行は、実行段階に入り、10月20日内閣府に対し移行申請書類を提出、平成24年12月

21日付で認可の答申が行われました。認可日は3月下旬とし4月1日登記を完了する予定です。又、次期代議員選挙は、11月5日立候補受付開始、12月3日代議員選挙投票受付開始、17日投票締め切り90名の代議員の選出を終了致しました。投票総数は3464票でした。以後、年度末にかけて支部及び同窓会の設立準備が進められました。

### 校友会各種データの電子データ化推進

定例業務としてデータの電子化は逐次メンテナンスを行うと同時に、代議員選挙人名簿の作成を始め、校友からの種々の要求にもお応えして参りました。

### その他、関係各部署との調整業務など

事務局と共同で行い、特に移行申請書の作成に当たっては事務局の全面的なバックアップを頂きました。

## 財務部



部長  
並木光雄



副部長  
小沢和重

### 理事

並木光雄 小沢和重  
浅見利夫 和田欣也  
田中久弥 田中正裕  
小林保男 西原康二  
相澤良夫

### ①平成23年度収支決算処理及び平成24年度収支予算案をまとめ、5月の議員会・総会で報告した。

特に問題なく、承認された。

### ②校友会会計処理チェックと残高確認の実施。

一般社団法人移行後の決算報告書の確認を含め、3ヶ月単位で年4回実施した。

### ③校友会監事による単体同窓会の会計監査(平成23年度)を支援した。

機械系、建築系学科……8月23日に実施した。  
電気電子情報、附属高等学校……8月24日に実施した。  
化学系、専門学校……8月28日に実施した。

例年通りの内容で実施し、特に問題はなかった。

### ④維持協力会費の増収を支援した。

同窓会別維持協力会費実績表を3ヶ月単位(6月、9月、12月末)で集計して関係する部門へ協力を要請した。

### ⑤一般社団法人移行に伴う決算報告書の変更をした。

従来の決算報告書(収支計算書、貸借対照表、財産目録等)を見直し、平成24年度決算報告から一般社団法人移行後の新財務諸表に対応した決算報告書(予算対比正味財産増減計算書、収支計算書、貸借対照表、財産目録等)に変更した。

### ⑥校友会予算管理(PDCA方式)の試運用を開始した。

事業活動の円滑な運営のため、校友会予算管理(PDCA方式)の試運用を各部門長のご協力により今年度から開始した。

各部から活動予算に対する活動目標と目標達成のための行動計画を作成してもらい、7月、10月、1月の四半期毎に実績の評価を行った。

試運用の実績評価は平成25年度の予算編成の参考にした。

### ⑦平成25年度の収支予算案の作成をした。

平成25年度予算は一般社団法人移行後の初年度予算にあたるため、移行に伴う事業費等を見直し、一般社団法人としての収支予算案をまとめた。

## 企画・広報部



部長  
谷口宗彦

企画・広報部会の役割は、校友会報の発刊と校友会ホームページの運営が主な活動です。部会はほぼ毎月1回のペースで会報の編集作業を中心に活動している。特に本年度は125周年の記念行事も多く、その会報の企画・検討、特集記事編集に主力をおき、理事会・常任理事会との意志疎通、情報の一体化を図り、会員に

正確な情報を伝えることを目標に努力している。

2012発行の校友会誌(Vol.133)は、学園が125周年を迎える年であり、永い歴史の中での位置づけ卒業生の活躍、本学に貢献された先生の紹介など、内容の充実にも努めた。今年度は身近な理事全員に対して会報に対する希望・改善点など、

メールアンケート調査を実施した。法人改革の年でもあり、様々な新しい情報を会員に周知し、次号へ向けて現在、校友会誌(Vol.134)の編集作業を進めている。

特に斬新で美しい誌面制作に努力している。表紙のデザインコンペは毎年応募者が少ない。現在募集中であるが、多数の方々からの応募も



副部長  
佐久間 憲喜

理事

谷口宗彦 三宅捷夫  
佐久間憲喜 田村久義  
吉川重克 名取勝敏  
大場光博 鈴木敏彦  
木本勝正 佐藤敏勝

受け付けたいので、広告企業の獲得も含め、全国の支部長の皆様、宜しくご協力の程、お願い申し上げます。

①活動方針と目標

企画・広報部会は、タイムリーなホームページの改訂と情報ネットの運用と維持、及び校友会々報の更なる充実を図ること。また、各単体同窓会や全国各支部と連携を取り、校友会々員へ関連する諸々の正確な情報提供を図ることを目的に活動を行う。

②各分野の活動

②-1.広報分野：広報作業における

課題の抽出と改善を討議する。

ホームページと情報ネットの維持、保守のシステム確認を行う。

②-2.編集分野：会報等の編集における課題の抽出と改善を討議する。

学園、校友会本部、単体同窓会との連携を維持、強化する。

②-3.広告活動：広告募集における課題の抽出と改善を討議する。

広告の顧客、紹介、斡旋、集金等のシステムの再確認を行う。

②-4.活動調整：部会外からの意見、要望などの調整を行う。

学園、校友会本部・支部、各単体同

窓会、各理事会との調整を行う。

各支部長及び支部の各位には、企画・広報部に対して、更なるご支援とご協力をお願いしたい。

メンバーは既報Vol.133でも紹介されたが、常任理事の谷口（建築）を部長に、常任理事の佐久間（専門）副部長、機械の田村理事、化学の吉川理事、電気の名取理事、建築の大場、鈴木の両理事、高校の三宅、木本理事、専門の佐藤（敏）理事の10名で構成され、現在、鋭意活動を行っている。

## 組織・事業部



部長  
來住 康弘



副部長  
谷 政美

理事

來住康弘 谷 政美  
南 弘 唐鎌貞郎  
菊地 正 白井精滋  
加藤隆弘 小口俊明  
岡安 彰 大越政志

■平成24年度組織・事業部活動計画

①部会：年間7回の開催日を決定。初年度に決めた案件をPDCAでまわす。

②支部活性化：企業支部設立。休眠支部の再開。論文博士取得者及び特別教職課程修了者のメンバー化の検討。

③支部総会：校友会活動報告を中心に学園トピックスを報告。125周年記念事業への募金のお願い。校友会の一般社団法人移行の進捗報告。

④全国支部長会開催：審議事項「一般社団法人移行に伴う、支部の具体的な手順とスケジュールについて」

⑤第17回全国（埼玉）大会：埼玉実行委員会と準備をする。

⑥「新春の集い2013」：前年の参

加人数385名を上回ること。

■活動報告

①今年も予定の部会7回を開催したが、1期3年、本メンバーで当初に決めた予定の部会、通算21回を実施し、年度初めのPDCA、その都度の案件処理をした。

②1000名強の校友がいる群馬県支部再結成が出来た。香川県、愛媛県、徳島県、岐阜県、奈良県、和歌山県、鳥取県、岡山県準備中。

東京支部を筆頭に首都圏支部、学園支部の活性化支援が出来なかった。論文博士取得者及び特別教職課程修了者のメンバー化は、新学校友会移行後とする。

③前年に続き、一般社団法人へ移行するに伴う支部の位置付け問題があるので、積極的に参加をした。事前

に資料を作り訪問支部に送付したものを基に説明をした。

④10月30日（火）に開催。参加41支部。福田総務部長はじめPPを使用して現状報告をして頂いた。各支部とも4月1日から新生支部としてスタート出来る様、3月末までに必要書類提出のお願いをした。移行支援は、支部長会終了後も引き続き行っている。議事録は関係各位に配布済み。

⑤第17回全国（埼玉）大会は、東日本大震災発生の為延期をしたので、一時中断したが実行委員会も再度立ち上げ準備に入った。

開催日は平成26年10月18日（土）～19日（日）に決定。

⑥参加者384名と僅か1名減とは言え、目標達成出来なかった。

## 学園連携部



部長  
佐藤 浩安



副部長  
渡辺 征三

理事

佐藤浩安 渡辺征三  
近藤 智 遊馬靖美  
鷹野一朗 後藤敏明  
住野和男 坂口教子  
小川 隆

平成25年度の主な事業計画

- 1.優秀学生生徒の奨励と表彰
- 2.学生生徒の活動支援
- 3.学園ホームカミングデーの企画協力支援
- 4.校友子女特別支援について
- 5.卒業生バックアップセンター機能の再構築

平成24年度活動報告

①校友子女特別選抜入試の件

例年では、校友子女のおられそうな、年代層を中心に、別冊刷りで、校友会員に、ご案内しておりましたが、本年度は、経費節減の一環として、校友会誌（5月郵送済み）に校友子女特別入試選抜の応募方法を、会員の皆様方に、お伝えしておりました。

その結果、7名応募、7人合格いたしました。しかし、この校友子女特別選抜制度も、発足当時の目的をある

程度達し、現在の学園の要望等が変化してきており、この制度を終了させ、代替として次年度は工学院大学に入学してくる校友子女に、具体的な優遇策を検討してゆく時期に来ております。

②学生生徒奨励と表彰

昨年5月、校友会総会時に、学園より推薦された優秀学生生徒を表彰いたしました。内訳は、中学校2名、高等学校3名、大学及び院生20名です。

③学生生徒支援

新宿祭、八王子祭、夢工祭に援助金として支援。学生生徒のプロジェクトに援助金として支援。英語弁論大会に援助金として支援。体育会連合OB会支部の東京マラソンに援助金として支援。

④学園、大学後援会との連携

学園の後援会との連携を深め校友会の位置づけを話す場として、後援会

支部大会（父母懇）に参加し、校友会を理解して頂く活動をおこなった。今年は、後援会の山梨支部と群馬支部に参加した。

⑤卒業生バックアップセンターの業務中止

平成22年5月発足した卒業生バックアップセンターは、当初、卒業生の転職サイトや情報交換のツールとして活動してきましたが、残念ながら、今般の経済情勢により、維持管理会社のオプトジャパン社の経営状態から、業務手続終了することになり、既に加入の会員の皆様方に、多大なご迷惑をお掛け致しましたこと、深くお詫び申し上げます。今後の運営につきましては、今までの個人情報漏洩防止はもとより、校友会プロジェクトチームを立上げ、会員の皆様方のニーズに沿ったシステムを構築してゆきます。

## 校友会事務局からのお知らせ・お願い

### 維持協力会費納入のお願い

在学中に納入していただいている終身会費だけでは校友会の運営が難しくなってきました。工学院大学校友会としては、学園に対して今まで以上の支援を考えております。平成24年度の維持協力会費は、約600名の方々から230万円を超過金額をご協力いただきましたが、皆様方の更なるご協力をよろしくお願い申し上げます。

### E-mail アドレスをお持ちの方は是非お届け下さい

平成14年3月から会員に対してE-mailによる情報ネット発信態勢の構築に取り掛かっており、現在、5,100

名余の登録があります。定期的に学園や校友会の情報を発信しておりますのでE-mailアドレスをお持ちの方、一度お届け後変更された方は同封の総会出席通知にご記入の上、投函下さいますようお願いいたします。なお、既に情報を受け取られている方は再登録の必要はありません。

### 工学院大学校友会 STEC VISA カードのご案内

工学院大学校友会 STEC VISA カードは、工学院大学校友会会員・在学生ならびに教職員の方と家族だけがお持ちいただけるエンブレムカードです。(工学院大学校友会と三井住友カード(株)が提携発

行する公認カードです) 会員の方がこのカードをお使いになると、その利用額に応じた提携手数料が還元金としてカード会社から校友会に入金され、学園援助費、学生・生徒活動の援助費の一部に充当されます。なお、カード使用に当たっては通常のクレジットカードと同じ手数料以外は一切負担となることはありませんので申し込み希望の方は同封の総会案内の連絡欄に〇印をつけてご返送下さい。この件のお問い合わせは校友会事務局までお願いいたします。

### 校友会のホームページを開いてみてください

校友会のホームページは、各種の行事案内と報告、会員に関係のあるトピックスなど情報満載です。全国大会や総会・新年会の写真もたくさん掲載されておりますので、ぜひご覧下さい。事務局の休業日等も掲載されており、ご来校の予定の前にはご確認頂くこともできます。

校友会 HP

URL : <http://www.kogakuin.or.jp>

会員のページ2の

パスワード

TEL / 03-3342-2064・03-3340-1649

FAX / 03-3342-2035

E-mail [jimukyoku@kogakuin.or.jp](mailto:jimukyoku@kogakuin.or.jp)

## 受章

山本 修氏 旭日小授章を受章

平成24年春の褒章で山本 修氏(昭和33年、大学機械工学科卒)が旭日小授章の栄誉を受けられました。

高巢 光男氏 黄綬褒章を受章

平成24年春の褒章で高巢 光男氏(昭和43年大学建築学科卒)が黄綬褒章の栄誉を受けられました。

## 訃報

次の方々をご逝去されました。

ご生前のご活躍を偲び謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

元校友会常任理事	田中 博国氏	平成24年5月30日ご逝去
元校友会副会長	長坂 舜二氏	平成24年12月18日ご逝去
元校友会理事	藤田 定一氏	平成25年1月13日ご逝去
校友会名誉会員	寺島 敬二氏	平成25年1月28日ご逝去
西東京支部長	青木 俊之氏	平成25年2月6日ご逝去
校友会名誉会員	池崎 誠氏	平成25年3月13日ご逝去
校友会名誉会員	金尾 武彦氏	平成25年3月25日ご逝去

## 土木会の皆様へ

工学院大学専門学校 土木会は昭和30年12月1日に発足して以来、今年で57年が経ちます。

土木会は設立の趣旨に則り、数々の事業を行って来ました。しかし、専門学校が廃校となり土木会拡大の方途もなく、後進の育成も儘ならなくなりました。

そのため土木会は平成23年度に臨時総会を開催し、土木会会則第25条に基づき解散することとしました。残金に関しては有効に利用していただくために工学院大学校友会に寄付いたします。

関係者の皆様、大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

——— 土木会副会長 高嶋 賢一

## 東京マラソンで「オール工学院大学」が地域貢献活動

東京マラソンは今年2月(2013年)に第7回が行われた。今やランナー3万5千人と、国民的なメジャー大会に発展し、本学(学生、卒業生、職員など)からも10倍の難関を突破し毎年数名のランナーが参加している。今年は残念ながらボクシング部OBの1名のみであった。

我が工学院大学も都心に近いため第3回から新宿キャンパスに於いてボランティア活動を行っている。活動内容はトイレ(B1F~4F)及び着替え場所(B1Fホール、1Fアトリウム)の提供で約2千名のランナーに利用して頂いている。また、地下道の大学前を通るランナーに対して

大学ロゴ入りハンドタオル(今年は3千5百枚)を配布しながら声援を送った。沿道では大学のノボリをたてランナーに声援を送っている。活動メンバーは、体育会の学生を中心に大学教職員、後援会、校友会の皆さん(毎年約90名)に早朝から協力願っている。校友会からは資金面でも支援を頂いている。

引き続き「オール工学院大学」として活動を継続する予定です。皆様のご声援をお願い致します。



平成25年2月 校友会体育会連合OB会支部

# 一般社団法人 工学院大学校友会 第一回社員総会開催のお知らせ

新定款 第4章 第15条から第24条に基づき開催する。

日時／平成25年5月26日(日) 10:30～  
 場所／新宿キャンパス 3階「アーバンテックホール」  
 議案／第1号議案 平成24年度事業報告承認の件  
 第2号議案 平成24年度  
 貸借対照表及び損益計算書承認の件  
 報告事項／①平成25年度 事業計画及び予算  
 ②新理事・監事  
 ③学園125周年記念募金の件  
 ④一般社団法人移行関連事項、他

一般社団法人移行後のはじめての代議員による社員総会です。議決権は代議員のみに与えられますが一般会員の皆さまにも等しく発言権があります。これまで通り出来るだけ多くの会員の皆様の参加をお願い致します。

## 「総会当日のプログラム」

### ◆総会

受付 ●10:00～  
 開会 ●10:30～  
 議事 ●11:00～

(議事終了後、同窓会ごとに「報告会兼意見交換会」を開催)

### ◆学園近況報告・学生、生徒の表彰式

●14:00～

### ◆懇親会(於 食堂)

●15:10～

## 学術講演会について

学術講演会は、総会時には開催せず別途開催いたします。開催の詳細については、決定次第校友会のホームページでお知らせします。

平成24年度の学術講演会は、日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門研究主席理学博士山本博之氏を迎え、平成25年3月1日(金)に開催されました。「放射線の影響と日常生活」の演題でわかりやすく説明され、その後の質疑応答では活発なやりとりがありました。

平成24年度第12回常任理事会(3月19日)で、4月1日からの6つの部会(従来は5部会)の部長と副部長が決まりました。3月22日の第6回理事会で報告されました。



部長 菊地 正



部長 阿部 洵



部長 田中 英生



部長 小澤 和重



部長 谷 政美



部長 福田 忠彦



副部長 阪塚 辰典



副部長 若松 昭秀



副部長 常盤 英晴



副部長 太田 正利



副部長 渡辺 征三



副部長 上野 耕平

## 学生・生徒の表彰報告

(平成24年度総会において)

### 大学院

機械工学専攻2年  
 化学応用学専攻2年  
 電気・電子工学専攻1年  
 情報学専攻1年  
 建築学専攻2年

原口慎太郎  
 高橋 敬  
 久保守二郎  
 鈴木 雅斗  
 渡辺 聖子

### 工学院大学

工学部1部機械工学科2年  
 工学部1部機械システム工学科2年  
 工学部1部機械システム工学科2年  
 GE 学部機械創造工学科2年  
 工学部1部応用化学科2年  
 工学部1部応用化学科2年  
 工学部1部環境エネルギー化学科2年  
 工学部1部電気システム工学科2年

森山 幸俊  
 江川 典良  
 奈良 淳平  
 藁谷 隆太  
 木村 直城  
 山崎 絢乃  
 伊藤 弘樹  
 宇賀神健人

### 工学院大学

工学部1部情報通信工学科3年 杉本 洋輝  
 情報学部コンピュータ科学科3年 佐々木信一  
 情報学部情報デザイン学科3年 古川 恭兵  
 建築学部2年 加藤 光貴  
 建築学部2年 下野 誠矢  
 建築学部2年 石田 和久  
 工学部2部建築学科2年 岡田 和美

### 附属高等学校

中高一貫コース3年 塚本 裕介  
 文理特進コース3年 今居 竜一  
 普通コース2年 武藤 一平

### 附属中学校

3年 米山知奈美  
 2年 本多みなみ

## 校友会代議員の選挙結果

### 機械系同窓会【得票数】

順位	氏名	得票数	
1	福田 忠彦	83	当選
2	渡辺征一郎	68	当選
3	笠原 又一	64	当選
4	谷井 繁夫	58	当選
5	木下 幸秀	50	当選
6	関谷 重彦	43	当選
7	岡崎 明男	33	当選
8	並木 光雄	32	当選
9	田中 英生	30	当選
10	中山 佳則	25	当選
11	小川 文夫	21	当選
11	唐鎌 貞郎	21	当選
11	近藤 智	21	当選
14	根本 俊雄	19	当選
15	梶田 和男	18	当選
16	山下 晴久	16	当選
16	植木 幸裕	16	当選
18	北川 良治	15	補欠
19	柏原 靖	11	補欠
20	横田 仁	9	
21	岩田 秀明	4	
全21名	合計	657	

### 化学系同窓会【得票数】

順位	氏名	得票数	
1	茅野 昭	138	当選
2	吉岡 利幸	114	当選
3	菊地 正	50	当選
4	山本 龍也	38	当選
5	菅原 康里	26	当選
5	山口 和男	26	当選
7	志村 豊	16	当選
8	吉川 重克	14	当選
8	若松 昭秀	14	当選
10	和田 欣也	13	当選
11	遊馬 靖美	11	当選
12	笠松 憲一	8	当選
13	伊井 宏聡	7	補欠 ※
13	白井 精滋	7	補欠 ※
全14名	合計	482	

※補欠順位は抽選により決定

### 電気電子情報同窓会【得票数】

順位	氏名	得票数	
1	長嶋 秀世	293	当選
2	横山 修一	92	当選
3	長谷川 努	84	当選
4	山崎 貞郎	68	当選
5	小沢 和重	46	当選
6	田中 久弥	43	当選
7	箕谷 祐也	36	当選
8	高野 昌司	35	当選
9	佐々木三七司	33	当選
9	鷹野 一朗	33	当選
11	唐崎 幸弘	32	当選
12	上野 耕平	30	当選
13	鷹田 拓也	27	当選
13	平野 貴之	27	当選
15	中林 賢司	16	当選
16	半澤 悟	15	当選
17	久禮 和彦	13	当選 ※
17	名取 勝敏	13	補欠 ※
19	島林 正美	12	補欠
20	千田 康弘	8	
21	渡辺 裕明	7	
22	新井 英伸	3	
全22名	合計	966	

※代議員選出規則第13条4項5項による抽選により決定

### 建築学部同窓会【得票数】

順位	氏名	得票数	
1	谷口 宗彦	157	当選
2	田野邊幸裕	85	当選
3	谷 政美	53	当選
4	鈴木 敏彦	37	当選
5	高木 雅行	33	当選
6	平井 充	32	当選
7	笹原 克	31	当選
8	阿部 信夫	30	当選
8	濱田 昭夫	30	当選
10	関谷 真一	29	当選
11	佐藤 英雄	27	当選
12	勝谷 尚武	26	当選
13	上野 光三	22	当選
14	大場 光博	20	当選
14	加藤 隆弘	20	当選
16	平野 久雄	18	当選
17	大塚 篤	16	補欠 ※
18	楠 昭	14	補欠 ※
18	南雲 正博	14	
20	澤崎 宏	11	
21	船越 康弘	10	
22	後藤 敏明	9	
22	菅家 幹	9	
24	高橋 一元	7	
25	小林 将夫	4	
26	高城 文一	3	
全26名	合計	747	

※抽選により決定

### お知らせ

この度の代議員選挙公報は最終学歴卒年順で立候補者をお知らせしました。従って大学院修士及び博士課程修了者は、在籍期間分後位置となりました。次回は、本表示順を含め学部卒年順(校友会員資格取得年)、五十音順他を検討するよう申し送ります。

### 附属高校同窓会【得票数】

順位	氏名	得票数	
1	三宅 捷夫	58	当選
2	佐藤 勝	35	当選
3	小林 保男	16	当選
4	内野 正之	14	当選
4	小川 隆	14	当選
6	若林 勝司	13	当選
6	島田 浩行	13	当選
8	太田 正利	12	当選
8	小口 俊明	12	当選
10	鄭 雄飛	10	当選
10	田中 元樹	10	当選
12	広田 慶孝	9	当選
13	池崎 誠	6	当選
14	岡安 彰	4	補欠
15	飯塚 辰典	2	補欠
全15名	合計	228	

### 専門学校同窓会【得票数】

順位	氏名	得票数	
1	阿部 洵	65	当選
2	佐藤 敏勝	58	当選
3	相澤 良夫	46	当選
4	山川 義則	40	当選
5	井上 博明	36	当選
6	渡辺 征三	20	当選
7	篠崎 秀夫	15	当選
7	平山 徹夫	15	当選
7	丸茂 聡	15	当選
10	佐藤 信一	14	当選
11	利部 靖彦	12	当選
11	駒崎 健一	12	当選
13	書上 正	11	当選
14	櫻井 良尚	10	当選
15	矢口 稔	6	当選
16	牧野 光洋	5	補欠
17	渡邊 克己	4	補欠
全17名	合計	384	



## 校友会東北地域ブロック会議・懇親会の開催

2月3日～4日に福島県支部長が発起人になり、東北5県から17名の参加を得て福島市飯坂温泉(ホテル聚楽)にて、盛會に開催しました。校友会の新組織について話し合い、本部の菊地理事から新組織の設立の進め方の

話がありました。懇親会では、より親交が深まり、この会議は継続し、来年は、宮城県での開催が決まりました。福島市内の古関記念館、信夫山などを見学し解散しました。

文：福島県支部 簡野紀夫



## 校友会のホームページ

校友会に関する各種情報は、次のホームページをご覧ください。 <http://www.kogakuin.or.jp/>  
会員ページはパスワードが必要です。(パスワード )  
工学院大学校友会事務局 E-mail : jimukyoku@kogakuin.or.jp

## 校友会会報 (Vol.135) の広告募集

「校友会報」の広告を下記の要領で募集します。皆様のご協力をお願い致します。

1. 募集対象：各企業、組織、団体の広告など。
2. 広告代：カラー／表紙裏1頁16万円、他12万円、1/2頁6万円／黒一色1頁10万円、1/2頁5万円
3. 募集メ切：平成25年12月17日（火曜日）
4. 掲載：校友会報2014 Vol.135に掲載
5. 原稿送付先：校友会事務局宛に郵送、電子メール等。E-Mail : jimukyoku@kogakuin.or.jp
6. 原稿形態：Word文章等の電子データを電子メール、または郵送。
7. 問い合わせ先：校友会事務局 TEL 03-3342-2064 FAX 03-3342-2035、E-Mail : jimukyoku@kogakuin.or.jp
8. 発行予定：平成26年4月20日 9. 発行部数：約67,000部 10. 配布先：全国校友会員、学園関係者など

## 表紙デザインの説明

表紙デザイン／ 工学部応用化学科 五十嵐 淳 [ Through the window. ]  
細胞工学研究室

125周年を迎え、八王子キャンパスの1号館が新しく生まれ変わりました。光を多く取り入れた明るい教室や自習スペース、事務などが入りとても便利になりました。今回、八王子キャンパスの新しい顔となった新校舎を先輩方に見てもらいたく応募いたしました。おすすめは夕方からで、日が落ちると窓から灯りがこぼれ、昼とは違った表情を見せます。今回の作品で最も苦労したのが、この光が溢れる美しさの表現でした。この写真を多くの皆様にご覧いただければ幸いです。



## 編集後記

昨年の校友会報は、創立125周年の記念すべき年で、校祖 渡邊洪基先生に関する記事を3編掲載しました。今年は「工手学校中興の祖」と呼ばれている第2代管理長古市公威先生に注目し、茅原健先生に執筆を依頼しました。古市先生は1875（明治8）年フランスに留学中、あまりにも勉強が疲まじく下宿先の夫人に「少し休むように」といわれた時、「私が1日休めば、日本が1日遅れます」と答えた話は、維新直後、日本の近代化を世界的視野で目指した青年の熱い情熱を物語っています。

一方、それから137年後の昨年10月31日に、工学院大学は創立125周年を迎え、記念式典などの行事を盛大に行いました。新たな年を迎えて、次の150周年に向けて第一歩を踏み出しています。学園のさらなる展開には「教育の改革」と「グローバル化」が大きな課題と指摘されています。

本校友会はいよいよ法人改革を文科省の指導のもとに、各種寄付行為・規約が整備され今年1月、内閣府から承認されました。皆さんの投票による代議員制となり、2013年

度から新制一般社団法人校友会・各単体同窓会が発足しました。

今年度も編集スタッフをはじめ多くの方々にご協力を戴き、ご執筆戴いた卒業生、在校生、そして教職員をはじめ、広告出稿されました各企業や、数多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。そして、今年のレイアウトデザインは、青空広告の森本淳二さんをお願いして大変印象的な誌面構成となりました。皆様のご感想・ご意見お寄せ下さい。

敬具

工学院大学校友会 企画・広報部

Email : kikakukoho-bucyo@kogakuin.or.jp

校友会副会長 / 企画・広報部長

谷口宗彦（建築）

副部長 佐久間惣喜（専門）

理事 田村久義（機械）、吉川重克（化学）、名取勝敏（電気）、大場光博（建築）、鈴木敏彦（建築）、三宅捷夫（高校）、木本勝正（高校）、佐藤敏勝（専門）

## Tokyo Urban Tech 工学院大学 校友会報 Vol.134

●発行日 2013年4月20日 ●発行/工学院大学 校友会

●住所 163-8677 東京都新宿区西新宿 1-24-2

電話 / 03-3342-2064、03-3340-1649 FAX / 03-3342-2035

E-Mail:jimukyoku@kogakuin.or.jp <http://www.kogakuin.or.jp>

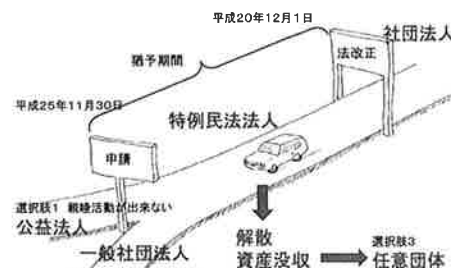
●編集 工学院大学校友会 企画・広報部 ●本文デザイン・印刷/株式会社 青空広告事務所・株式会社プロネート

# 今回の改革で同窓会と支部はどのように変わるのか

制度の基本はシンプル、公明正大で明るく、分かり易い体制、そして、卒業生の幸せを目指す会にする

名称	「一般社団法人工学院大学校友会○○同窓会、○○県支部」となる。実質的には従来と変わらない。			
位置づけ	1) 正式に校友会の構成部門として認知される。 2) 大きくは校友会の傘下として、定款や諸規則を遵守する責任と義務が発生する。 3) 反面、同窓会、支部としての独自性は確保される。(従来通り)			
総会	校友会として一本化されるため、同窓会や支部独自の総会は不要となる。但し、一般校友への「報告会兼意見交換会(従来の総会)」を新たに実施しなければならない。			
会計	1) 本部からの交付金の使途を3月中に領収書を添えて報告する。 2) 事業年度終了後、事業報告と決算書を本部に提出する義務が発生する。 3) 同窓会や支部の独自の非営利的活動は、独立勘定会計として処理できる。			
長や組織の呼称統一	役職等\組織	校友会	同窓会	支部
	●長 ●執行部 ●執行部会	●会長 ●理事 ●理事会	●会長 ●幹事 ●役員会	●支部長 ●幹事 ●幹事会
役員定年 (就任時満75歳未満)	1) 組織活性化のためには、ある程度の年齢制限が必要である。 2) 定年制導入により、計画的な後継者育成が不可欠となる。 3) 特定個人の組織の私物化排除。(就任期間無期限の弊害排除) 4) 特に功績があり余人に代え難き同窓会長、副会長、支部長、副支部長は定年後も“長”の推薦、理事会の審議を経て校友会会長が委嘱することにより、顧問として後進の支援に当たる。			
代議員制	1) 民法が変わり、総会には会員の過半数の出席が必要。本部は代議員制度を取り入れて解決。そして、同窓会と支部の総会は、「報告会兼意見交換会」と呼ぶことになった。 2) 代議員選出制度の透明化。(会員の議決権行使の公平性) ●誰でも校友会代議員候補になることが出来る。(自薦又は他薦、他薦には推薦者3名必要) ●代議員は同窓会や支部の代表ではなく、あくまでも校友会会員全体の代表である ●代議員選挙は校友会の選挙であり、同窓会は代議員選挙の単なる選挙区			
会費納入の義務化	当方は校友会維持協力会費納入とするが、将来は改めて検討の必要がある。 [今後の検討課題] 1) 終身会員制度の見直し。 2) 維持協力会費、終身会費の見直し。 3) 校友会費・同窓会費・支部会費・部会費の見直し、整理。			
活動	1) 決算書の事案に対する同窓会役員会や支部幹事会を開催(3月末)しなければならない。 2) 本部社員総会終了後、同窓会役員会や支部幹事会を開催しなければならない。 3) 同窓会や支部の報告会兼意見交換会を開催しなければならない。 4) 支部は年2回以上の行事を実施する必要がある(内容については支部の実態に合わせる)。			
本部への報告義務	1) 決算書、事業報告書を、会長宛提出する義務が発生する。 2) 「役員会や幹事会」及び「報告会兼意見交換会」の議事録の写しも会長宛提出する。			

## 行政刷新 → 新公益法人制度



## 本部役員・支部長メールアカウント一覧

校友会本部役員、各支部長への連絡は下記のe-mailアドレスをご利用ください。(校友会のサーバーに一定期間保管されます)

### 本部役員 2013.4.1現在

会長	kaicyo@kogakuin.or.jp	副会長	fukukaicyo@kogakuin.or.jp
総務部長	somu-bucyo@kogakuin.or.jp	財務部長	zaimu-bucyo@kogakuin.or.jp
総務部副部長	somu-fukubucyo@kogakuin.or.jp	財務部副部長	zaimu-fukubucyo@kogakuin.or.jp
広報部長	koho-bucyo@kogakuin.or.jp	同窓会組織部長	dosokaisosiki-bucyo@kogakuin.or.jp
広報部副部長	koho-fukubucyo@kogakuin.or.jp	同窓会組織部副部長	dosokaisosiki-fukubucyo@kogakuin.or.jp
支部組織部長	sibusosiki-bucyo@kogakuin.or.jp	学園連携部長	gakuenrenkei-bucyo@kogakuin.or.jp
支部組織部副部長	sibusosiki-fukubucyo@kogakuin.or.jp	学園連携部副部長	gakuenrenkei-fukubucyo@kogakuin.or.jp
監事	kanji@kogakuin.or.jp	事務長	jimucyo@kogakuin.or.jp
事務局	jimukyoku@kogakuin.or.jp		

### 支部長 2013.3.31現在 (法人移行に伴う支部設立手続きの有無にかかわらず記載しています)

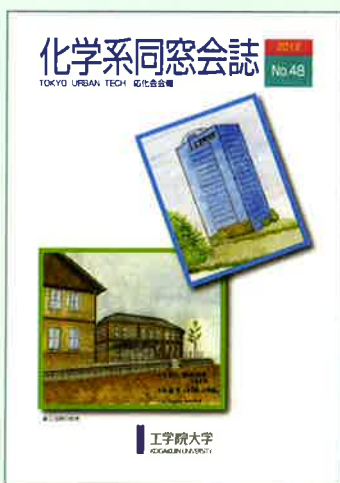
北海道支部	hokkaido@kogakuin.or.jp	西 湘支部	seisyo@kogakuin.or.jp	山口県支部	yamaguchi@kogakuin.or.jp
青森県支部	aomori@kogakuin.or.jp	新潟県支部	niigata@kogakuin.or.jp	徳島県支部	tokushima@kogakuin.or.jp
岩手県支部	iwate@kogakuin.or.jp	富山県支部	toyama@kogakuin.or.jp	香川県支部	kagawa@kogakuin.or.jp
宮城県支部	miyagi@kogakuin.or.jp	石川県支部	ishikawa@kogakuin.or.jp	愛媛県支部	ehime@kogakuin.or.jp
秋田県支部	akita@kogakuin.or.jp	福井県支部	fukui@kogakuin.or.jp	高知県支部	kochi@kogakuin.or.jp
山形県支部	yamagata@kogakuin.or.jp	山梨県支部	yamanashi@kogakuin.or.jp	福岡県支部	fukuoka@kogakuin.or.jp
福島県支部	fukushima@kogakuin.or.jp	長野県支部	nagano@kogakuin.or.jp	佐賀県支部	saga@kogakuin.or.jp
茨城県支部	ibaraki@kogakuin.or.jp	岐阜県支部	gifu@kogakuin.or.jp	長崎県支部	nagasaki@kogakuin.or.jp
栃木県支部	tochigi@kogakuin.or.jp	静岡県支部	shizuoka@kogakuin.or.jp	大分県支部	oita@kogakuin.or.jp
群馬県支部	gunma@kogakuin.or.jp	愛知県支部	aichi@kogakuin.or.jp	宮崎県支部	miyazaki@kogakuin.or.jp
埼玉県中央支部	saitama-chuo@kogakuin.or.jp	三重県支部	mie@kogakuin.or.jp	鹿児島県支部	kagoshima@kogakuin.or.jp
埼玉県西支部	saitama-nishi@kogakuin.or.jp	京都支部	kyou@kogakuin.or.jp	鹿児島県支部	kagoshima@kogakuin.or.jp
千葉県支部	chiba@kogakuin.or.jp	和歌山県支部	wakayama@kogakuin.or.jp	沖縄県支部	okinawa@kogakuin.or.jp
東京都支部	tokyo@kogakuin.or.jp	兵庫県支部	hyogo@kogakuin.or.jp	清水建設支部	shimizu@kogakuin.or.jp
西東京支部	nishi-tokyo@kogakuin.or.jp	鳥取県支部	tottori@kogakuin.or.jp	日本電気支部	nenec@kogakuin.or.jp
川 崎支部	kawasaki@kogakuin.or.jp	島根県支部	shimane@kogakuin.or.jp	東 芝支部	toshiba@kogakuin.or.jp
横 浜支部	yokohama@kogakuin.or.jp	岡山県支部	okayama@kogakuin.or.jp	関西支部	kansai@kogakuin.or.jp
湘 南支部	syonan@kogakuin.or.jp	広島県支部	hiroshima@kogakuin.or.jp	三和シャッター支部	sannwa-sha@kogakuin.or.jp
相 模支部	sagami@kogakuin.or.jp			学 園支部	gakuen@kogakuin.or.jp
				体育会連合OB会支部	taikuu-ob@kogakuin.or.jp

# 校友会各同窓会誌、学園広報誌の紹介

校友会誌と共に同窓会誌が送られていますが、自分の所属以外の同窓会誌は、あまり目にする事は少ないと思いますのでご案内します。  
 なお各同窓会誌は新宿キャンパス B1 および 28 階校友会事務局に  
 おかれていますので、ご覧になってはいかがでしょうか。



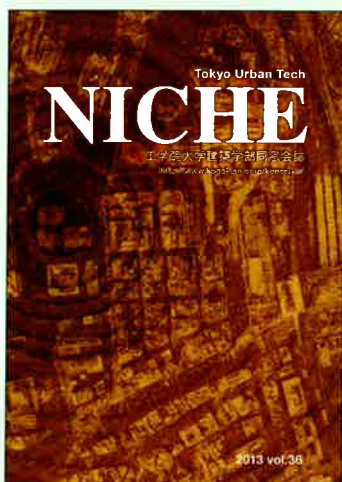
機械系同窓会誌



化学系同窓会誌



電気電子情報同窓会誌



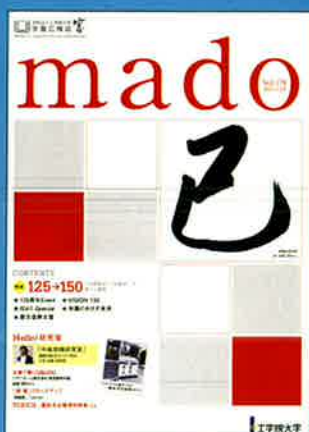
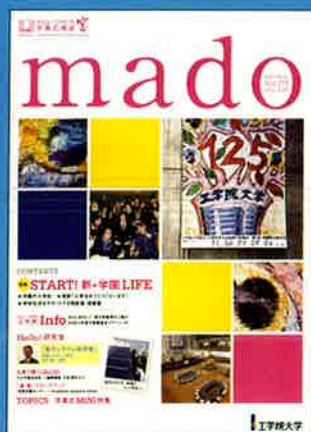
建築学部同窓会誌



附属高等学校同窓会誌



専門学校同窓会誌 (休刊中HP参照)



学園広報誌「窓」

学園広報誌「窓」定期購読のおすすめ  
 学園の最新の情報を掲載した「窓」は4月、7月、10月、1月の20日発行予定で、定期購読ができます。購読料は2年間で1,000円(送料込)です。お申し込みは広報課まで。

お申込先/学校法人工学院大学 総合企画部広報課  
 〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2  
 TEL/03-3340-1498 (直) FAX/03-3340-1648



TOKYO URBAN TECH

工学院大学

工学院大学校友会

<http://www.kogakuin.or.jp>